ふれる！
あじわう！
つづける！

（財）日本ハンドボール協会常務理事
（普及特別委員会会長）　角　紘昭

『59.5：6.3』この数字は、ある大学の学生が行った「現在おこなっているスポーツを始めた時期について」現役の学生、社会人を対象とした調査[1]の中で、小学生の時から始めたサッカー（59.5％）とハンドボール（6.3％）の割合です。このほかにバスケットボールは49.5％という結果が出ています。サッカーやバスケットボールは、現在の小学生は全員が小学校の授業で必ず学習し、授業後のスポーツ活動でも経験する機会の多いスポーツです。さらには、新聞・テレビ等のマスメディアにも日常的に報道され、子供たちの目にも触れる機会も多いといえます。

スポーツを普及させるには、早い段階から触れさせる事がとても有効だということです。

今回の学習指導要領の改訂で、小学校のボール運動の領域に「ハンドボールなどその他のボール運動を加えて指導することができる」と「内容の取り扱い」に示されたので、今後は、小学校の授業の中でハンドボールが指導されるように強力に進めるべきです。それと同時に、スポーツ教室、スポーツ少年団活動等、小学生を対象としたハンドボールの活動を進めることが必要です。

また、子供たちが将来にわたりハンドボールを続けてゆくためには、ボール運動やチームプレーの楽しさ、良さを十分にあじわわせることが大切です。このことは実際に子供たちを指導する指導者の熱意と指導テクニックに依るところが大です。

前述の調査では、そのスポーツを始めたきっかけについては、「親がやっていた、勧められた」「兄弟がやっていた、勧められた」「自分に向いていると思った」「新しいスポーツに挑戦するため」などが、バスケットボール、サッカーのそれよりも高い割合を示していました。

このことは、ハンドボールを続けてゆくための本人の意思と環境がしっかりしている事を示しています。

ライフサイクルに応じてハンドボールに「ふれる！ あじわう！ つづける！」機会があれば、ハンドボールの根は張り、枝は広がってゆくと信じます。

いま、ハンドボール界に必要な事は、指導体系の確立と指導者の養成、各地区での環境整備、機会提供のための組織活動、連帯感を育てる１０万人会の推進、ハンドボールヒーローの創出です。

(1) 平成12年「ハンドボールの普及・振興に関する一考察」新潟大学教育学部４年、山崎博之氏

2001年ワールドゲームズ秋田大会
全日本ビーチハンドボール代表決定！

ワールドゲームズとは

ワールドゲームズは、４年に１度世界各地で開催されるスポーツと文化の祭典です。オリンピックで実施されている競技・種目以外の競技・種目が実施されています。(http//www.wg2001.or.jp/jp/index.html)

この夏秋田で８月16日から26日までの11日間開催される「第６回ワールドゲームズ」は、アジアでは始めての大会となります。世界約80カ国・地域から約3250名の選手・役員が参加します。秋田県内８市町村、21会場で31競技170種目が実施されます。

ビーチハンドボールとは

ビーチバレーやビーチサッカーなど、手軽に行われるニュースポーツに影響されて、90年代初めにヨーロッパ各地で考え出されたスポーツです。国際ハンドボール連盟（ＩＨＦ）のリードのもと、2001年８月のワールドゲームズ秋田大会では、公開競技として秋田県本荘市の本荘マリーナで第１回世界選手権を兼ねるかたちで行われます（http//www.wg2001.or.jp/jp/sports/beachhandball.html)。輝く太陽の下、砂浜で裸足になり、水着やそれに近いユニホームでプレーすることや、競技時間外には海で泳いだり砂浜で日焼けを楽しめるなど、これまでのハンドボールのイメージを一新する開放的なスポーツとして、世界中で受け入れられつつあります。

競技に使用するボールはゴム製で大きさも手軽なため、パスやシュートの際のボール操作は誰にでも簡単にできます。また、ビーチハンドボール独自のルールがあることや、砂地でプレーしなければならないことなど、そのルールに精通していなければ、７人制のハンドボール経験者やトッププレーヤーでも絶対的有利であるとは言いきれないことも魅力の一つといえましょう。

日本でのビーチハンドボール

日本でのビーチハンドボールは千葉県の富浦町を中心に競技大会が開催されてきました。ＩＨＦの方針を受けて、日本ハンドボール協会の中にビーチハンドボール委員会が組織され、本間誠章委員長を中心とする地元スタッフによる、関東ビーチハンドボールフェスティバル・さざなみ大会などが開催されています。このさざなみ大会は回を重ねるにつれ参加チームが増し、地元千葉県のみならず、東京、神奈川などの近隣県や関東圏外からもその魅力に引き込まれた愛好者が終結してきます。ビーチハンドボール委員会や各地の大学（順天堂、国際武道、筑波、秋田、千葉明徳、等）などが中心となって、普及の輪が広がりつつあるといえましょう。

平成11年８月には第１回の日本選手権が千葉県富浦町で開催され、第２回は平成12年８月に秋田県本荘市で開催されました。第２回大会においては、その結果を受けて、本年１月にブラジルでの開催が予定されていた第１回世界ビーチハンド選手権に向けての男子日本代表チームが初めて組織されたのですが、残念ながらブラジル世界選手権は開催中止、第１回世界選手権は延期となってしまった経緯があります。

その結果、今年８月に秋田県で行われる秋田ワールドゲームズ・ビーチハンドボール競技が第１回世界選手権となることになりました。それを受けて、平成13年５月19・20日に富浦町で開催された第５回関東ビーチハンドボールフェスティバル・さざなみ大会がそれに向けての代表選考会を兼ねました。そしてそこで優勝を果たした、男子はＢＥＡＣＨ　ＢＯＹＳ（三陽商会)、女子はオール選抜（日本リーグのトップ選手たち）を中心とする日本代表チームが決定しました。日本代表がワールドゲームズにおいて、どのような活躍をするかに注目が集まります。

ワールドゲームズが行われる秋田県では、地元でビーチハンドボールが一人でも多くの方々に楽しまれるようにと、様々な取り組みがなされてきました。たとえば秋田県秋田市の下浜小学校ではこのビーチハンドボールを授業に取り入れようということになり、秋田大学の佐藤靖監督と部員７人が授業に招かれ、児童への指導にあたったこともあります。また、98年10月に秋田県秋田市八橋で行われたワールドゲームズフェア'98では、前日に６時間をかけて八郎潟から運ばれたという40ｔもの砂を使って、千葉県協会のスタッフと秋田大学のメンバーが協力して、特設ビーチハンドボールコートを作りました。その結果、会場を訪れたスポーツファンやちびっこたちが靴を脱いでデモンストレーションに飛び入り参加し、ＧＫとのシュート対決をするな

どの順番待ちグループがひしめき合い、フェスタに参加した29競技の中でもひときわ目につく大賑わいとなりました。秋田県本荘市の本荘マリーナで行われる本大会に、地元市民の眼が注がれることでしょう。

ビーチハンドボールのルール説明

7人制ハンドボールを基礎に考え出されてはいますが、ビーチハンドボールには独自のルールがあります。

コートでプレーできるのは、GK1人を含む4人。7人制に比べ、コートの大きさは半分にも満たなく、ボールも小さくなっています。試合時間は10分ハーフ、前後半それぞれにポイントが与えられ、各ハーフ終了時に同点のときには、「ゴールデン・ゴール方式」でそのハーフの勝敗を決定します。前後半を分け合った場合には、各チーム5人ずつでのワンマン速攻合戦、「ワンプレイヤー対ゴールキーパー戦」で勝敗を決めます。

試合時間は10分ハーフと短いのですが、内容はスピーディーでスリリング。スカイシュートやGKによる得点にはボーナスポイントが与えられるので、スカイプレーとGKの攻撃への参加、さらには攻防の切り替えに伴う選手交代の出来が勝敗に大きな影響を及ぼします。スカイシュートなどの華麗な技は観客の眼を大いに楽しませてくれます。

以下にそのルールの概要を記します。

◎ コートと用具

コートサイズ　縦27m、横12m（ゴールエリアラインは直線）

砂の厚さ　40cm以上（シューズは履いてはならない）

ライン　伸縮性のある色つきロープか幅8cm以上のロープ

ゴールの大きさ　高さ2m、横3m（7人制と同じ）

ボール　男子：外周 54cm～56cm
重さ 350g～370g
女子：外周 50cm～52cm
重さ 280g～300g

◎ 試合人数と時間

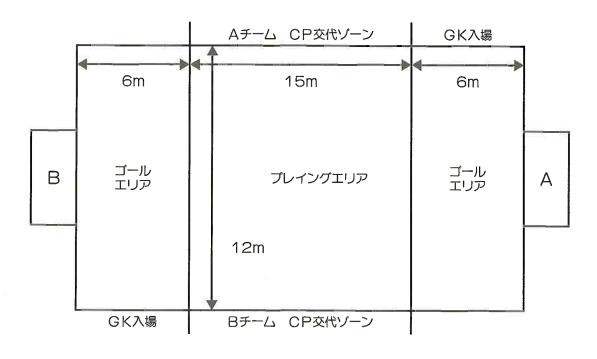
試合人数　4人・コートプレイヤー3人、ゴールキーパー1人、ベンチ入りは8人

競技時間　10分－5分（休憩）－10分

◎ 競技方法と勝敗

競技方法　サイドの選択をコイントスで決め、レフリースローで開始する。得点が入ったら、得点を入れられた方のチームのゴールキーパースローで競技を再開する。プレー中はキーパーもプレイングエリアでの攻撃に参加することができる。ボールを持って4歩以上歩いたり、ダブルドリブルは反則となる。

勝敗　それぞれのハーフは得点上独立しており、前半・後半の勝者にはそれぞれ1ポイントが与えられる(10対0でも1ポイント)。また、ハーフの終了時に同点の場合は次のゴールで勝者を決定する「ゴールデン・ゴール方式」が適用される。前半・後半とも同じチームが勝った場合にはこのチームが2－0で勝者となるが、両チームが前半・後半でそれぞれ勝った場合は、勝ち点が同点となり引き分けとなる。このときには勝者を決定するために、ワンマン速攻によるゴールキーパーとの対決、「ワンプレイヤー対ゴールキーパー戦」を行う。

得点　シュートの違いで得点が大きく変わってくる。
ジャンプシュート、ステップシュート　：1点
スカイシュート、GKによる
プレイングエリアでのシュート　：2点
6mスロー　：2点
GKのスカイシュート　：3点

秋田ワールドゲームズ2001年　日本代表名簿

男子日本代表

監督	福士唯男	ふくし　ただお
コーチ	数藤盛樹	すどう　しげき
マネージャー	橋本智枝	はしもと　ともえ

	氏名	ふりがな	所属	身長
選手１	岩本真典	いわもと　まさのり	大崎電気	198
選手２	宇田川敏郎	うだがわ　としろう	三陽商会	177
選手３	飯嶋慶太	いいじま　けいた	三陽商会	174
選手４	長岡洋行	ながおか　ひろゆき	三陽商会	181
選手５	五島宏隆	ごしま　ひろたか	三陽商会	178
選手６	酒井浩史	さかい　こうじ	三陽商会	176
選手７	須藤武志	すどう　たけし	三陽商会	178
選手８	元村東弘	もとむら　あずひろ	三陽商会	186
選手９	木村祐介	きむら　ゆうすけ	三陽商会	188
選手10	櫻庭正明	さくらば　まさあき	野辺地高校	188

女子日本代表

監督	荷川取義浩	にかわどり　よしひろ	北國銀行
トレーナー	高柳智恵	たかやなぎ　ともえ	オレンジ・カウンティー
マネージャー	奥谷里美	おくたに　さとみ	北國銀行

	氏名	ふりがな	所属	身長
選手１	上出恵美子	かえで　えみこ	北國銀行	168
選手２	小松真理子	こまつ　まりこ	北國銀行	155
選手３	宮本奈芳美	みやもと　なおみ	オムロンOG	164
選手４	山口文子	やまぐち　あやこ	オムロンOG	173
選手５	沖土居真子	おきどい　まさこ	春日井高校	155
選手６	酒井めぐみ	さかい　めぐみ	ムネカタ	168
選手７	白崎敏美	しらさき　としみ	ブラザー工業OG	155
選手８	黒瀬知子	くろさき　ともこ	ブラザー工業OG	171
選手９	熊谷祐子	くまがい　ゆうこ	シャトレーゼ	165
選手10	佐藤絹子	さとう　きぬこ	シャトレーゼOG	160

第1回世界ビーチハンドボール選手権大会・試合日程

〈開　会　式〉

日　　程	時　　間	場　　所	内　　容
8月23日(木)	09：05～09：25	本荘マリーナ海水浴場	ＩＨＦ会長挨拶・記念品贈呈等

〈試　　合〉

日　　程			時　　間	男子の部	女子の部
8月23日(木)	1	予選リーグ第1日	10：00～10：30	イラン vs スペイン	中国 vs ドイツ
	2		11：00～11：30	ベラルーシ vs トーゴ	ブラジル vs 日本
	3		12：00～12：30	日本 vs ブラジル	トーゴ vs ウクライナ
	4		13：00～13：30	スペイン vs ベラルーシ	ドイツ vs ブラジル
	5		14：00～14：30	ブラジル vs イラン	ウクライナ vs 中国
	6		15：00～15：30	トーゴ vs 日本	日本 vs トーゴ
	7		16：00～16：30	イラン vs トーゴ	中国 vs 日本
	8		17：00～17：30	ベラルーシ vs 日本	ブラジル vs トーゴ
	9		18：00～18：30	スペイン vs ブラジル	ドイツ vs ウクライナ
8月24日(金)	10	予選リーグ第2日	12：00～12：30	ベラルーシ vs ブラジル	ブラジル vs ウクライナ
	11		13：00～13：30	日本 vs イラン	トーゴ vs 中国
	12		14：00～14：30	トーゴ vs スペイン	日本 vs ドイツ
	13		15：00～15：30	ブラジル vs トーゴ	ウクライナ vs 日本
	14		16：00～16：30	日本 vs スペイン	トーゴ vs ドイツ
	15		17：00～17：30	イラン vs ベラルーシ	中国 vs ブラジル
8月25日(土)	16	準決勝	13：00～13：30	予選1位 vs 予選4位	予選1位 vs 予選4位
	17	準決勝	14：00～14：30	予選2位 vs 予選3位	予選2位 vs 予選3位
	18	5～6位決定戦	15：00～15：30	予選5位 vs 予選6位	予選5位 vs 予選6位
	19	3～4位決定戦	16：00～16：30	16の敗者 vs 17の敗者	16の敗者 vs 17の敗者
	20	優勝決定戦	17：00～17：30	16の勝者 vs 17の勝者	16の勝者 vs 17の勝者

〈表　彰　式〉

日　　程	時　　間	場　　所	内　　容
8月25日(土)	18：05～18：45	本荘マリーナ海水浴場	男女1位～3位までの表彰

〈閉　会　式〉

日　　程	時　　間	場　　所	内　　容
8月25日(土)	18：45～19：00	本荘マリーナ海水浴場	ＪＨＡ会長挨拶・常設旗降納

ジャパンオープン組合せ決まる

第６回ジャパンオープンハンドボールトーナメントは、よさこい高知国体のリハーサル大会として、８月13日より16日まで高知市民体育館をメイン会場に行われる。

第６回を迎えたこの大会は、国体リハーサル大会として徐々に定着してきており、参加チームもクラブ界、教員界、実業団とさまざまなチームが連盟の垣根を越えて戦い、全日本総合への登竜門となっている。本年度も、上位チームは全日本総合への出場権を獲得することになる。

大会展望　女子の部

女子の部では、昨年優勝の宮城ケヤッキーズが出場せず、多少残念なこととなっている。宮城ケヤッキーズは、今年地元での国体を控えるチーム。強化の方も順調に進んでいると見るが、国体に照準をあわせ、この大会は自重した様子である。第１シードは、この宮城ケヤッキーズのブロック１位で出場する大農ＯＧに配された。第２シードは、昨年準優勝の熊本クラブ、第３シードに第３位の香川銀行チームハンドに配された。第４シードは、第４位のオレンジクラブが出場せず、関東１位で出場するあじこめに割り当てられた。

１回戦を見てみると、小松クラブ女子対あじこめがまず目を引く。小松クラブは日本リーグ北國銀行のＯＧ主体チーム。今までも上位進出の実力は充分に持っていたが、勝ち運に恵まれずシードチーム入りが出来ないでいた。一方、あじこめは、前シャトレーゼ、自衛隊、ガビアーノなどの選手で固めるチーム。関東１位で勝ちぬけてきたことは、実力はかなりのものであることは確かであろう。この勝者が一気に決勝まで進出すると見る。

このほかでは、２回戦で対戦すると思われる香川銀行チームハンドとコスモスビッキーズが好試合となるだろう。優勝を占えば、小松クラブ女子、あじこめ、香川銀行チームハンド、コスモスビッキーズ、そして第１回大会優勝の熊本クラブあたりが有力とみる。この中で唯一の実業団チームである香川銀行チームハンドは、チームのまとまりもよく今年こそはの意気込みもあると思われ、その戦い振りが注目されるところである。また、日本リーグＯＧを中心とする各クラブチームも、その実力は優勝を狙うのに充分である。

男子の部

男子の部では、昨年優勝の大同クラブが第1シードに配された。以下順に、昨年準優勝の香川クラブ、氷見クラブ、日新製鋼、エルムクラブ、チーム群馬、熊本教員クラブ、小松ウェンズデーがシードされた。シード対象チームが参加しない場合は、同ブロックの上位チームがシード枠に配された。そのため、ケーブルネット氷見の代わりに氷見クラブ、三景の代わりに小松ウェンズデーがシード枠に入った。しかし、氷見クラブは、国体終了後、そのまま以前の氷見クラブに戻ったとみることができよう。中心メンバーは、ケーブルネット時代にも活躍した、小川、中川等が名を連ねている。

組合せ全体をみると、ここ数年上位を占めてきたチームが今年も有力とみる。また、ブロック予選を１位で通過してきたチームも要注意である。

１回戦を見てみると、パームヒルズと紫嵐会が注目される。パームヒルズは、沖縄の実力派チーム、この大会への登場が遅かったためか、いつもくじ運に恵まれず上位の強豪チームに苦汁を飲まされている。今年こそはの意欲も充分とみる。かたや、紫嵐会は今年地元での国体を控え、強化の進んでいるチーム。国体を控え是非とも成果を残して帰りたいところだ。このほか１回戦では、埼玉教員クラブ対日新製鋼、小松ウェンズデー対SOCIO OSAKAなどが過去の実績もあり好試合と思われる。

準々決勝は、氷見クラブ対リリオ神奈川、パームヒルズ対香川クラブ、大同クラブ対コザクラブ、日新製鋼対福島クラブとみるのが順当であろう。どこも実績もあり、ここから上位は予想が難しい。

優勝を占えば、大同クラブ、コザクラブ、日新製鋼、香川クラブあたりが有力と見る。大同クラブは、昨年のメンバーがそろえば最右翼と言ってよいだろう。日新製鋼は日本リーグ撤退以来充分なトレーニングができない状態である。このあたりが克服できないと苦しい状態と見る。香川クラブは、田中、後藤、河合などで幾多の全国大会を勝ち抜いてきたが、最近では衰えが目立つ。夏の猛暑の時期に５日間勝ちつづけることは苦しい状況となっている。

これらの実績組を破る若手のチームが出てくれば、全体がおもしろくなるだろう。

第6回ジャパンオープントーナメント大会組合せ

【男　子】

決勝

3位決定戦

- 大同クラブ(愛　知) 1
- 総社クラブ(岡　山) 2
- 大瀬クラブ(奈　良) 3
- 水海道鬼怒清流クラブJr.(茨　城) 4
- 湯沢クラブ(秋　田) 5
- 千葉教員(千　葉) 6
- きときとクラブ(富　山) 7
- コザクラブ(沖　縄) 8
- チーム群馬(群　馬) 9
- 西笹川クラブ(三　重) 10
- 愛媛教員クラブ(愛　媛) 11
- 福島クラブ(福　島) 12
- 葵クラブ(京　都) 13
- 若鮎会(熊　本) 14
- 埼玉教員クラブ(埼　玉) 15
- 日新製鋼(広　島) 16
- 17 氷見クラブ(富　山)
- 18 岩手教員ハンドボールクラブ(岩　手)
- 19 北送会(長　崎)
- 20 スワロークラブ(兵　庫)
- 21 徳山クラブ(山　口)
- 22 高知クラブ(高　知)
- 23 リリオ神奈川(神奈川)
- 24 エルムクラブ(北海道)
- 25 小松ウェンズデー(石　川)
- 26 SOCIO OSAKA(大　阪)
- 27 パームヒルズクラブ(沖　縄)
- 28 紫嵐会(宮　城)
- 29 滋賀クラブ(滋　賀)
- 30 静岡県教員団(静　岡)
- 31 甲府クラブ(山　梨)
- 32 香川クラブ(香　川)

【女　子】

決勝

3位決定戦

- 大農OG(秋　田) 1
- OFC(岡　山) 2
- 静岡城北クラブ(静　岡) 3
- 埼玉白小鳩(埼　玉) 4
- くろしおクラブ(高　知) 5
- 函館ホッパーズ(北海道) 6
- 小松クラブ女子(石　川) 7
- あじこめ(神奈川) 8
- 9 香川銀行チームハンド(香　川)
- 10 千葉クラブ(千　葉)
- 11 コスモスビッキーズ(大　分)
- 12 びわこLakers(滋　賀)
- 13 白梅三英美会(岩　手)
- 14 京都教員クラブ(京　都)
- 15 愛知WINS(愛　知)
- 16 熊本クラブ(熊　本)

平成13年度全国高等学校総合体育大会
高松宮賜杯　第52回全日本高等学校ハンドボール選手権大会
男子組み合わせ

会場
A 山鹿市総合体育館　8月2日～7日
B 鹿央町公民館　8月2日～5日
C オムロン鹿陽センター　8月2日～3日

No.	学校名	都道府県
1	大分国際情報高等学校	大分
2	國學院大学栃木高等学校	栃木
3	中越高等学校	新潟
4	県立香川中央高等学校	香川
5	県立不来方高等学校	岩手
6	県立倉敷青陵高等学校	岡山
7	県立松蔭高等学校	愛知
8	県立小林工業高等学校	宮崎
9	県立東根工業高等学校	山形
10	北海道函館工業高等学校	北海道
11	府立洛北高等学校	京都
12	浦和学院高等学校	埼玉
13	仙台市立仙台商業高等学校	宮城
14	県立池田高等学校	徳島
15	県立熊本工業高等学校	熊本2
16	九州産業大学付属九州産業高等学校	福岡
17	県立富岡高等学校	群馬
18	県立彦根東高等学校	滋賀
19	県立広高等学校	広島
20	県立紀北農芸高等学校	和歌山
21	県立四日市工業高等学校	三重
22	県立那覇西高等学校	沖縄
23	市川高等学校	千葉
24	県立氷見高等学校	富山
25	熊本国府高等学校	熊本1
26	県立長野南高等学校	長野
27	法政大学第二高等学校	神奈川
28	県立添上高等学校	奈良
29	学校法人石川高等学校	福島
30	岐阜市立岐阜商業高等学校	岐阜
31	県立三本木高等学校	青森
32	北陸高等学校	福井
33	県立伊奈高等学校	茨城
34	県立境高等学校	鳥取
35	県立国分高等学校	鹿児島
36	県立松山商業高等学校	愛媛
37	此花学院高等学校	大阪
38	駿台甲府高等学校	山梨
39	県立神埼清明高等学校	佐賀
40	清水市立商業高等学校	静岡
41	県立松江南高等学校	島根
42	県立高知南高等学校	高知
43	県立湯沢高等学校	秋田
44	育英高等学校	兵庫
45	安田学園高等学校	東京
46	県立岩国工業高等学校	山口
47	金沢市立工業高等学校	石川
48	瓊浦高等学校	長崎

試合	対戦
A1	2 − 3
A7	1 − A1勝者
A2	4 − 5
A8	A2勝者 − 6
A13	A7勝者 − A8勝者
A3	8 − 9
A9	7 − A3勝者
A4	10 − 11
A10	A4勝者 − 12
A14	A9勝者 − A10勝者
A17	A13勝者 − A14勝者
A5	14 − 15
A11	13 − A5勝者
A6	16 − 17
A12	A6勝者 − 18
A15	A11勝者 − A12勝者
B1	20 − 21
B6	19 − B1勝者
B2	22 − 23
B7	B2勝者 − 24
A16	B6勝者 − B7勝者
A18	A15勝者 − A16勝者
A21	A17勝者 − A18勝者
B3	26 − 27
B8	25 − B3勝者
B4	28 − 29
B9	B4勝者 − 30
B11	B8勝者 − B9勝者
B5	32 − 33
B10	31 − B5勝者
C1	34 − 35
C6	C1勝者 − 36
B12	B10勝者 − C6勝者
B15	B11勝者 − B12勝者
C2	38 − 39
C7	37 − C2勝者
C3	40 − 41
C8	C3勝者 − 42
B13	C7勝者 − C8勝者
C4	44 − 45
C9	43 − C4勝者
C5	46 − 47
C10	C5勝者 − 48
B14	C9勝者 − C10勝者
B16	B13勝者 − B14勝者
A22	B15勝者 − B16勝者
A24	A21勝者 − A22勝者

平成13年度全国高等学校総合体育大会

高松宮賜杯　第52回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

女子組み合わせ

	会場	日程
A	山鹿市総合体育館	8月6日～7日
D	鹿本町民体育館	8月2日～5日
E	三加和町民体育館	8月2日～5日
F	城北高校体育館	8月2日～3日

No.	学校名	都道府県
1	宣真高等学校	大阪
2	桜花学園高等学校	愛知
3	県立福井商業高等学校	福井
4	横浜創英短期大学女子高等学校	神奈川
5	県立郡山東高等学校	福島
6	筑紫女学園高等学校	福岡
7	宮崎女子高等学校	宮崎
8	県立高知南高等学校	高知
9	聖和学園高等学校	宮城
10	熊本市立必由館高等学校	熊本2
11	松江市立女子高等学校	島根
12	浦和実業学園高等学校	埼玉
13	県立陽明高等学校	沖縄
14	県立巻高等学校	新潟
15	県立盛岡第二高等学校	岩手
16	県立境高等学校	鳥取
17	昭和学院高等学校	千葉
18	県立添上高等学校	奈良
19	暁高等学校	三重
20	県立山梨高等学校	山梨
21	県立高松商業高等学校	香川
22	県立鹿児島南高等学校	鹿児島
23	初芝橋本高等学校	和歌山
24	小松市立高等学校	石川
25	夙川学院高等学校	兵庫
26	清水市立商業高等学校	静岡
27	北海道札幌月寒高等学校	北海道
28	県立神埼清明高等学校	佐賀
29	県立水海道第二高等学校	茨城
30	県立倉敷中央高等学校	岡山
31	県立佐世保西高等学校	長崎
32	守山市立守山女子高等学校	滋賀
33	県立今治北高等学校	愛媛
34	文化女子大学附属杉並高等学校	東京
35	県立大曲農業高等学校	秋田
36	県立屋代高等学校	長野
37	県立栃木女子高等学校	栃木
38	県立華陵高等学校	山口
39	県立池田高等学校	徳島
40	高岡向陵高等学校	富山
41	県立東根工業高等学校	山形
42	県立松橋高等学校	熊本1
43	県立高山高等学校	岐阜
44	県立大分鶴崎高等学校	大分
45	県立富岡東高等学校	群馬
46	県立青森中央高等学校	青森
47	県立賀茂高等学校	広島
48	府立洛北高等学校	京都

組み合わせ

- D1: 2 – 3
- D7: 1 – D1
- D2: 4 – 5
- D8: D2 – 6
- D13: D7 – D8
- D3: 8 – 9
- D9: 7 – D3
- D4: 10 – 11
- D10: D4 – 12
- D14: D9 – D10
- D17: D13 – D14
- D5: 14 – 15
- D11: 13 – D5
- D6: 16 – 17
- D12: D6 – 18
- D15: D11 – D12
- E1: 20 – 21
- E6: 19 – E1
- E2: 22 – 23
- E7: E2 – 24
- D16: E6 – E7
- D18: D15 – D16
- A19: D17 – D18
- E3: 26 – 27
- E8: 25 – E3
- E4: 28 – 29
- E9: E4 – 30
- E11: E8 – E9
- E5: 32 – 33
- E10: 31 – E5
- F1: 34 – 35
- F6: F1 – 36
- E12: E10 – F6
- E15: E11 – E12
- F2: 38 – 39
- F7: 37 – F2
- F3: 40 – 41
- F8: F3 – 42
- E13: F7 – F8
- F4: 44 – 45
- F9: 43 – F4
- F5: 46 – 47
- F10: F5 – 48
- E14: F9 – F10
- E16: E13 – E14
- A20: E15 – E16

決勝

- A23: A19 – A20

■平成13・14年度日本協会評議員決まる■

6月9日開催の第1回理事会において、(財)日本ハンドボール協会寄附行為第22・23条に規定されます評議員を選出しましたのでご報告申し上げます。

選出されました評議員の皆様には、日本ハンドボール協会発展のためご尽力、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

なお、中体連からの評議員選出は事情により遅れておりますので、未選出と致しました。

	都道府県	氏名	所属団体役職
1	北海道	武田節夫	常任理事
2	青森県	斎藤浩	会長
3	岩手県	谷藤勝美	理事長
4	宮城県	高橋長偉	会長
5	秋田県	高山重雄	理事長
6	山形県	奥山重雄	理事長
7	福島県	後藤義信	理事長
8	茨城県	大村久	理事長
9	栃木県	細井操	会長
10	群馬県	高橋潔	副会長
11	埼玉県	遠藤健次	副会長
12	千葉県	稲生茂	副会長
13	東京都	滝口三郎	副会長
14	神奈川県	森川利昭	副会長
15	山梨県	菊島哲也	副会長
16	長野県	青木崇	副会長
17	新潟県	藤崎孝	理事長
18	富山県	中山圭三	副会長
19	石川県	寺垣俊彦	副会長
20	福井県	庄司勝三	副理事長
21	静岡県	清水保雄	副理事長
22	愛知県	西村亮治	理事長
23	三重県	川畑幸永	理事長
24	岐阜県	杉本真一	理事長
25	滋賀県	秋永昭治	理事長
26	京都府	小西博喜	副会長

	都道府県	氏名	所属団体役職
27	大阪府	東嘉伸	副会長
28	兵庫県	狩野幸介	副会長
29	奈良県	中川敏文	理事長
30	和歌山県	田中秀和	理事
31	鳥取県	松原紀機	副会長
32	島根県	森江和吉	理事長
33	岡山県	生本純一	会長
34	広島県	山本一	理事長
35	山口県	増田雅夫	副会長
36	香川県	槇井俊明	事務局長
37	徳島県	長尾輝夫	常任理事
38	愛媛県	柳原勉	理事長
39	高知県	片岡修一	会長
40	福岡県	田中守	理事長
41	佐賀県	甲斐忠義	副会長
42	長崎県	浅田五郎	会長
43	熊本県	井薫	副会長
44	大分県	一万田尚登	理事長
45	宮崎県	坂本平	会長
46	鹿児島県	堀之口貞男	会長
47	沖縄県	新垣健	副会長
48	実連	岩井正樹	会長
49	教職員	佐野和夫	会長
50	学連	久保義雄	副会長
51	高体連	河崎修	副委員長
52	中体連	(未選出)	

競技規則（2001） 改訂の概要と解説

（財）日本ハンドボール協会　審判部

2001年8月1日からIHFで公式に実施された新競技規則において、およそ20項目の実質的な規則改訂がなされた。これに伴い、（財）日本ハンドボール協会では平成14年4月より新競技規則を実施する予定となっている。2000年11月のIHF伝達総会で呈示された文章に、すでにこの改正点は要約されていた。しかし、これ以外にも競技規則条文における構成、配列、表現などを含めた記述上の改正も幾多に及んでいる。

IHF競技規則書2001は英語で原書が作成された最初のものであり、したがって英語版の競技規則書はより活用しやすくなっている。その成果として、条文はより読みやすく理解しやすくなり、特定の項目を見つけやすくなっている。（条文に下線を引き、各規定のキーワードにすぐ気付けるようになっている）。また、競技規則を自国語に翻訳するにあたって英語版を使用している多くの各国協会で、このことが役に立てばとの願いも込められている。

しかし、競技規則書の読者は、規則の実質的な改正のない箇所でも、競技規則条文や段落の小改正点すべてに注目することが大切である。この文章は、（財）日本ハンドボール協会平成14年度版競技規則書を刊行（平成13年9月頃を予定）する前に、各条項における主な改正点（実質的な改正点も記述上の改正点も）挙げて解説するために翻訳・作成されたものであり、新版競技規則書を読む際にも役に立つであろう。なお、旧競技規則書で対応する条目を（旧○：○）を付記している。

第1条　コート

実質的な改正は競技規則1：3（旧1：9）だけで、コート上の一部でラインを引く代わりに、ラインの区画する領域間の色を変えてもよいとしている。もちろんこれは、ラインに関する従来の用法に対しての単なる選択肢なのである。

記述上の改正においては、ゴールエリアラインと7mライン、4mラインをどのように引かなければならないかについて、より正確な指示を競技規定1：4、6、7（旧1：3、5、6）に記載した。ハンドボールのコートやゴールの架設責任者への手助けとして、より詳細な「ガイドライン」を競技規則書の巻末に収めている。しかし、このガイドラインは総合規則には含めない。

第2条　競技時間、終了合図、タイムアウト

この条目（そしてこれに関する競技規則解釈も）については、実質的な改正点と構成や用語の改正点が幾つかある。

この条目を、競技時間（2：1～2：2）、終了の合図（2：3～2：7）、タイムアウト（2：8～2：10）の3セクションに分けている。

実質的な改正の第1点として、競技規則2：2（旧2：7）で、各延長戦における5分ずつの前後半の間に1分の休憩を設けると記載している。サイドを交代するのにどうしても時間が少々かかるし、このようにすれば短時間の戦術的議論のチャンスをチームに与えることにもなる。

必ずタイムアウトをとらなければならない状況の一覧を、競技規則2：8（新条項）にまとめた。2分間の退場としたとき、レフェリーは必ずタイムアウトを取らなければならないと指示している。これは、判定に際して状況をより平穏で明快なものにして、特にどちらのプレーヤーを退場するかについて疑念を抱かせないよう意図したものである。一方で、タイムアウトをとるかどうかについて、レフェリーは主観的な判断を持ち込む必要がなくなる。

競技規則解釈2（新）は、競技規則2：8（新条項）に関連している。レフェリーが「原則として」タイムアウトをとるべきかどうかを決定するとき、「タイムアウトをとらずに競技を中断することで、一方のチームに不当な不利益が生じないかどうかを、レフェリーはまず最初に考えなければならない」と述べている。

競技規則2：10（新条項）には、チームタイムアウトに関する基本的な規定を記載している。競技規則解釈3（新）でその手順を記述している。いつチームはタイムアウトをもらえるのかについて、ここでは規則はかなり簡単になっていることに注目しなければならない。チームがボールを所持していれば、チームタイムアウトを請求するとすぐにもらえるのである。さらに、チームタイムアウトを請求するときには必ず「グリーンカード」を使用しなければならないと明記している。

第3条　ボール

この条項では実質的な改正が2項目ある。まず、2号球の最大重量を下げ（400→375g）、1号球の最大重量と最小重量を規定している。

第2の変更点として、レフェリーは時間を節約できると考えれば、または他の理由で望ましいと判断すれば、いつでも予備のボールを競技に使用できるというものである（現行の規定では、元のボールがもはや使用できない場合に限って許されていることである）。元のボールをすぐに戻せないという状況はそれほど頻繁には起こらないと思われるので、これは小さな改正である。たとえ元のボールが「もはや使用できない」とは言えない状態であっても、レフェリーが適切であると判断すれば、いつでもボールを交換できる

権利をレフェリーは有していることを明確にするのが、この改正の主目的なのである。

第4条　チーム、交代、服装

記述の都合上、この長い条項をより明快にするため、チーム構成（4：1〜4：3）、交代と不正入場（4：4〜4：6）、服装と外傷（4：7〜4：11）の3セクションに分け、さらに個々の規定が1つの特定の項目を扱うよう合理的なものにしている。

競技規則4：5〜6で、不正交代や不正入場のために競技が中断した場合、通常はフリースローによって再開することを指示している。しかしながら、同時に競技規則解釈9（新）を参照する必要があり、防御側チームの違反により明らかな得点チャンスを妨害された場合の7mスローに関する規定をそこで説明している。

競技規則4：10（新条項）は、プレーヤーが出血している（した）場合どのように対処すべきかについて初めて規定したものである。規定は慣例の処置に一致するものであるが、このような状況を規定しておくことが大切であると思われる。ユニホームが充分にきれいになっているかどうかを、レフェリーは常識的に判断しなければならない。多量の血液が付着して拭いきれないためにユニフォームを交換する必要が生じた場合、たとえ番号の変更を余儀なくされてもレフェリーはプレーヤーのユニフォーム交換を認めなければならない（番号の変更に関する特定の状況における特別規定を認める必要がある）。

競技規則4：11（旧4：4）において、重要な改正がある。怪我をしたプレーヤーを救護するため、タイムアウトをとってコートへの入場を許可するジェスチャーをレフェリーがした場合、現行では両チームの全プレーヤーと全チーム役員に入場を許可している。これを、入場できるのは怪我をしたチームの2名（チーム役員あるいはプレーヤー）に限るというように改正している。他のプレーヤーやチーム役員はコートに入場できない。

このような中断の間、プレーヤーは自分のチーム役員と話をするために夫々のベンチに近づいてもよいが、タイムアウトが終わるとすぐに競技を再開できるよう用意をしなければならない。いかなる遅延もスポーツマンシップに反する行為とみなさなければならない。さらに、チームタイムアウトの場合と違って、交代に関する規定は完全に発効しているため、プレーヤーはこの規定に違反しないよう注意しなければならない。

第5条　ゴールキーパー

ボールをサイドラインやゴールラインの外に出したプレーヤーの意図を判断するのは望ましくないと思われるので、旧競技規則6：7c、7：9とともに、旧競技規則5：7を削除している。フリースローを判定しなければならない状況を同定しようとするよりも、このような全状況においてスローインを判定する方がより簡単な解決方法である。

新競技規則5：9〜10（旧5：11〜12）において、ゴールキーパーがコントロールしたボールを自分のゴールエリアに持ち込む、あるいはゴールエリア内において外側の床にあるボールを取り込んだ場合、レフェリーはフリースローを与えなければならないとはっきり規定している。明らかな得点チャンスと少しも関係ない状況としては、旧競技規則5：11〜12に規定されている7mスローとするより、この方がはるかに適切な結果であろう。

フリースローの実施規定における可能な改正についての議論と関連して、競技規則5：3（旧5：4）を再検討した。規定の表現は変更しないが、ゴールエリアライン外の床にゴールキーパーの身体のどこか一部が触れた瞬間に、規定ではフリースローを実施してよいと結論づけている。すなわち、スローを行う前に完全にゴールエリアを離れなければならない、と強要する必要はないということである。

第6条　ゴールエリアライン

競技規則6：5には重要な改正がある。ゴールキーパーが自分のゴールエリアでボールをコントロールしている（コート外に出ていないボールをキャッチした、あるいは拾い上げた）状況は、（相手またはゴールキーパーが最後に触れた）ボールがアウターゴールラインを越えた状況と同等に扱う。この双方の状況は競技規則第12条の下、ゴールキーパースローへと続くのである。

言い換えると、ゴールキーパーがボールをコントロールしたとき、ボールは技術的に「競技中断」の状態にあるとみなす。たとえば、ボールをコントロールした後は、ゴールキーパーがボールをこぼしてゴールにいれてしまうという「自殺点」はなくなるということを意味する。同様に、ゴールキーパーがボールをコントロールした瞬間に、そのゴールキーパー側のチームの不正交代が起こっても、相手のフリースローではなくゴールキーパースローで競技を再開する。

競技規則6：7bは、上記の競技規則5：9〜10（旧5：11〜12）と同様に改正する。プレーヤーが自分のゴールエリア内にボールを入れ、ゴールキーパーがそのボールに触れたとき、レフェリーは（7mスローではなく）フリースローを与える。理論的根拠は同じである。つまり旧競技規則における判定は過重であり、しかも状況は明らかな得点チャンスと全く関係がない。しかしながら、このような改正後は、防御側が自分のゴールエリアにボールを入れた場合には、レフェリーは必ずこの規定を厳密に適用して、そのチームにボールを所持させないよう求められることになる。故意ではなく（たとえば、ボールをコントロールしないで全く偶然に逸れて）ボールがエリアに入った場合のみ、競技規則6：6を適用（ゴールキーパースローにより競技を続行）

しなければならない。

6:2cにおける改正は、規定を明確にすることを単に企図したものである。特にゴールエリア内での防御活動で明らかに得点チャンスを妨害した場合、7mスローを判定しなければならないと決めている。

第7条　ボールの扱い方、パッシブプレー

ここでは、パッシブプレーに焦点を合わせており、他には改正していない（上述のとおり、旧競技規則7：9を削除する点を除いて）。

パッシブプレーに関する旧競技規則7：10を2つの規定に分けている。新競技規則7：10では基本原則とパッシブプレーの禁止を規定している。パッシブプレーは結局ボールの所持を失うことになると記載している。競技規則7：11（新条項）は、「予告ジェスチャー」の概念を取り扱っている。

パッシブプレーの正しい判定に関する指針を、手順の教示とともに、競技規則解釈4（新）に包括して規定している。チームとレフェリーの双方にとって大変重要な解釈をここに呈示している。

第8条　違反、スポーツマンシップに反する行為

ここでの改正は、条項の構成の合理化という、ほとんど全く記述上のものである。これまで「許される行為」と「許されない行為」として記載されてきたもの（8：1〜2）；段階的罰則につながる違反とスポーツマンシップに反する行為（8：3〜4）；「相手に危害を及ぼすような行為」と「著しくスポーツマンシップに反する行為」ですなわち共に失格となるもの（8：5〜6）；暴力行為に対する処理（8：7）、この定義を旧競技規則第17条から8：7に移し、より特定の状況に限定；（フリースローか7mスローによる）競技の再開方法（8：8）、としている。

競技規則8：2の「注」は削除している。「攻撃側の違反」のうち、これはたった2つの特定の状況に関する、すなわち走って、あるいはジャンプして防御側にぶつかるというものである。攻撃側違反は8：2b〜dに列挙しているように多様な形態で生じうるので、「注」のように偏狭な記載は不適当と考えた。しかし、プレーヤーが走って、あるいはジャンプして防御側にぶつかるという特定の状況においては、「防御側の不当な間合い」や「防御側が前方に移動中でないこと」といった判定基準を今後も用いていく。

第9条　得点

改正なし。

第10条　スローオフ

競技規則10：3で実質的な改正が2つある。2つとも、1997年に導入された迅速なスローオフの実施規定をより頻繁に活用するよう、両チームに奨励することを意図したものである。①少なくともスローを行うプレーヤーの片足は、センターラインを踏んでいなければならないが、もはやそのプレーヤーはちょうど真ん中に立つことを気にかける必要はなく（特に、この地点は常にマークされているわけではないので）、左右1.5mを許容範囲とする（コート中央で行うフリースローの場合に似せて）。②スローを行うプレーヤーの味方のプレーヤーはレフェリーの合図後、すぐに移動することが許される。つまりボールを投げるまで待たなくてよいのである。これは、スローの実施に関する一般原則の例外となる。

第11条　スローイン

改正なし。

第12条　ゴールキーパースロー

上述の競技規則6：5で説明した改正に伴って、少し記述上の改正を加えている。

第13条　フリースロー

特に構成や順序、そして各構成内容をどの条項に振り分けるかについて、この条項には大幅な記述上の改正がある。競技規則13：1〜5（新条項）にはフリースローの判定に関する様々な状況を記載しており、競技規則13：6〜9（新条項）ではフリースローの実施について取り扱っている。

新競技規則13：1は、違反の後にフリースローで競技を再開しなければならないと他の条項で規定している状況を、簡便に一覧としたものである。

競技規則13：2（新条項）では、「アドバンテージルール」を適用し、フリースローを判定しなくてもチームがボールを所持し続けられるならば、競技を続行させるという概念を述べている。また、攻撃側チームの違反の直後に防御側チームがボールを所持した場合、レフェリーはフリースローの判定をしてはならないと記載している。

競技規則13：4（新条項）では、たとえ規則違反がなくても競技の再開方法としてフリースローを与える状況について記載している。この種の状況のうち2つがレフェリースローの廃止に関連している。ボールが天井（またはコート上方の付属設備）に当たった場合には、最後にボールに触れたプレーヤーの相手チームに、レフェリーは即座にフリースローを与える。同様に、仮に違反がなかったとしても競技が中断し、どちらのチームもボールを所持していない場合には、最後にボールを所持していたチームにフリースローを与える。

競技規則13：6（新条項）ではフリースローを行う場所について、特に違反の起こった地点からフリースローを行ってはならない状況について詳述している。

第14条 7mスロー

この条項では、上述の競技規則第13条で呈示したことと同様に構成している。競技規則14：1〜3（新条項）では7mスローの判定に関して記載しており、競技規則14：4〜10（新条項）は7mスローの実施に関連する問題を網羅している。

競技規則14：1で、7mスローを判定しなければならない状況について説明している。これは競技規則第5、6、7条における改正に対応するものであり、すなわち「明らかな得点チャンス」が妨害された状況においてのみ7mスローを判定するよう、条項を合理化した。

初めてのことであるが、「明らかな得点チャンス」の定義を競技規則書に記載している。しかしながら、定義は長く、さらに詳述しなければならないため、競技規則14：1自身の中ではなく、競技規則解釈8（新）に別掲している。**【非常に重要】**この定義を拡大している。長年の間、この「成文化されていない」定義には2種類の状況が含まれていた。つまり①相手のゴールエリアラインのところで、ボールと身体をコントロールしたプレーヤーがゴールキーパーのみと対時している、②ボールをドリブルしてコントロールしながら、プレーヤーが相手のゴールキーパーに向かって独走して逆襲に転じている、という2つの状況である。

この定義が原因となって、上述のような状況において攻撃側プレーヤーがボールをキャッチする直前に、防御側プレーヤーが違反しようとしていることが、近年ますます明白になってきた。このような策略を排除するために、「明らかな得点チャンス」の定義を広げ、第3のシナリオ（筋書き）として次のような状況をきちんと含めている。すなわち、プレーヤーがまさにボールをキャッチしようとしているが、違反されたために、ボールをキャッチして（次の瞬間には）従来の明らかな得点チャンスに至ることが出来なかった場合である。第4のシナリオとして、ゴールキーパーが自分のゴールエリアを離れ、相手がボールを得た状況も定義に含める。違反されなければプレーヤーは無人のゴールに明らかにボールを投げ入れることができたであろうという状況をレフェリーが確信した場合、このような状況も「明らかな得点チャンス」の定義に当てはめる。さらにまた、競技規則解釈8（新）で、より詳細で正確に表現していることを解かってもらえるはずである。

競技規則14：6（旧14：5）において、この条項の意図をはっきりさせている。つまり、7mスローを行った後、ボールが相手かゴールに触れるまで、スローを行ったプレーヤーもその味方のプレーヤーもボールに触れることはできない。しかしながら、たとえばスローを行ったプレーヤーがボールを落とした場合、あるいは7mスローの実施に際して何らかの不正があった場合、相手はすぐにボールに触れてもよいのである。これまでの表現ではこのことが明確にされておらず、アドバンテージを適用する代わりにレフェリーは防御側にフリースローをすぐに与えなければならないことを意味している。

競技規則14：10（新条項）で、相手が7mスローの実施を準備できているときには、控えのゴールキーパーと交代することを（少し修正して）禁止している。これまで、このことは競技規則解釈に記述されていた。

（旧）第15条　レフェリースロー

競技規則13：4（新条項）のところで説明したように、レフェリースローを廃止する。フリースローの判定に関して説明している13：4（新条項）にあるような状況に加え、（理論的に）存在するレフェリースローの要因のひとつについて説明しておく必要がある。旧競技規則では「両チームのプレーヤーがコート上で同時に違反した」場合には、レフェリースローを判定しなければならないと記載されている。レフェリースローを廃止し、滅多に適用しないこの規定を削除したことに伴い、どちらのチームが先に違反したかをレフェリーが決定することになる。相手にフリースローを与える。

（新）第15条（＝旧第16条）スローの実施に関する一般的な指示

この条項ではわずかの記述上の改正のみを行い、条項の構成は改正していない。競技規則15：3（旧16：3）を簡略化し、レフェリーの合図の後にスローを行わなければならない状況をより明確にしている。

（新）第16条（＝旧第17条）罰則

各規定相互および個々の規定内で、より明白な概略と内容のより論理的な配置を企図して、この条項では重要で実質的な改正と、幾多の記述上の改正を行っている。

実質的な改正の1つを競技規則16：21（新条項）で取り扱っている。同じ状況において、個人に対してはただ1つの罰則しか与えることができないという従来の原則に例外を付すものである。レフェリーは次のような方法で柔軟に対応する。たった今2分の退場あるいは失格となったプレーヤーが、競技の再開前にスポーツマンシップに反する行為をした場合、そのプレーヤーはさらに2分間の退場を付加される（結果的に4分間の退場となる）。現行では、失格とするより他はないケースである。新競技規則では、著しくスポーツマンシップに反する行為に対処するために失格を残しておかなければならない。プレーヤーが「コートから出ていく（退場する）途中に」このような理由で失格となれば、この場合にもコート上のプレーヤーの数が4分間減らされることになる。

その他の大改正は、競技規則16：3c（旧17：3c）、16：3d（新条項）、16：6b（旧17：5）に記載している（幾分

「隠れ」てはいるが)。プレーヤーへの段階的罰則、つまり3回までの2分間の退場という通常規定を、コート外でのスポーツマンシップに反する行為に対しても適用すると、この条項で規定している(換言すると、即座に失格となるのは、すでに警告または退場を受けていてベンチにいるプレーヤーにおける、もはや単なるひとつの結果ではない)。同様に、チーム役員によるスポーツマンシップに反する行為に対する罰則についても、「イエローカード」と失格の間に、2分間の退場を1回挿み込む。「イエローカード」の場合と全く同様に、個々ではなく、そのチームの役員全員を合わせて高々1回までの退場を適用する。この2分間の退場はチーム役員がベンチから離れなければならないのではなく、チームはコート上のプレーヤーの数を2分間減らさなければならないことを意味しているのである。もちろん、これまでと同様、著しくスポーツマンシップに反する行為に対しては、すべて即座に失格としなければならない。

失格に関する報告書の提出を試合後レフェリーに要請する特定の状況を、競技規則16:8(第4段落)(新条項)で明確に記載しており、何らかの処分を追加するための論拠をこのようにして当該の裁定委員会に提出する。この規定を忠実に遵守することを各国協会に強制する。

(新)第17条(=旧第18条)レフェリー

この条項には幾つかの記述上の改正がある。たとえば、「第1」および「第2」レフェリーという指示は全て廃止し、また、提唱されているコートレフェリーとゴールレフェリーの任務分担の一覧は、競技規則というものの内容に相応しくないため削除している。

黒色のレフェリーウェアに関する表現も改正している。他の色のレフェリーウェアを着用する機会が増えたことに伴い、黒色をレフェリー用に「取っておく」のではなく、黒は「本来レフェリーのため」の色であると規定する。チームは落胆するかもしれないが、黒色のユニフォームの着用を禁止してはおらず、特定の競技においてレフェリーは色の選択に融通がきくようにしておかなければならないという意味である。

競技規則17:8(旧18:9)には重要な改正がある。両レフェリーが違反に反して笛を吹き、どちらのチームのボール所持とするかについて2人の判定が異なった場合、現行ではコートレフェリーの判定を採用することになっている。この杓子定規な方法は両レフェリーがどうしても相容れられない場合のみに限定し、本筋としては手短に互いに協議して合意の結果の判定を採用することにする。

(新)第18条(=旧第19条)タイムキーパー、スコアラー

ここでの改正は、タイムキーパーとスコアラーに関する、あまりにも詳細な(そして部分的には誤った)指示を削除しただけである。

ジェスチャー

もちろんレフェリースローのジェスチャーを削除している。タイムアウト中にコートへの入場を許可されるのは怪我をしたチームの2名に限られるが、そのジェスチャーは変更しない。

ゴールキーパースローのジェスチャーはゴールキーパーがゴールエリア内でボールをコントロールした場合にも原則として用いられることに注目しておかなければならない。しかしながら、特にゴールキーパースローとチームタイムアウトにはもはや関係がないので、以前ほど頻繁にこのジェスチャーを用いる必要はない。

ジェスチャーの用法に関する一般的なガイドラインを刷新している。すなわち、どのジェスチャーは必須で、どのジェスチャーは特定の状況においてレフェリーが適切と判断して用いるべきかを、より明確に表している。

競技規則解釈

大まかに言って、現行の競技規則解釈のほとんどを条文に統合するか、削除している。その代わりに、昨今より重要性の増してきたトピック(たとえばパッシブプレーやスローオフ、「明らかな得点チャンス」の定義)に関連する競技規則解釈を幾つか新作している。この競技規則解釈の多くは、これに関連する特定の条項に関して以前から議論してきたものである。

交代地域規程

IHF主催大会の競技規程では、特にチームのベンチをセンターラインから3.5m離れたところから設置するよう、ここで記載している。現状が許せば、あらゆるレベルの競技でもこれを実施するよう強く勧告もしている。

交代地域に関する新しい規定は他にはないが、幾つかの実情を本文に明記している。自分のベンチ前で歩いたり、立ち止まったり、ひざまずいたりできるチーム役員は、各チーム一度に1名だけである。さらに、チーム役員が自分のベンチの端を越えてコートのコーナーの方へ移動することは許されない。

コートとゴールに関するガイドライン

競技用具、正確な測定、ペイントといったコートの基本的構築に関わる人たちの便宜を図るため、この本文を競技規則書に掲載しているが、この本文は総合規則の一部ではなく、「規程」としての効力はない。例外的な状況においては、チームもレフェリーもこの本文を参照しなければならない。

イズミのクラブ化に注目

企画・広報委員
早川　文司

東アジア大会で日本は男子が３位、女子は準優勝した。とくに女子の日韓対決はアテネに向けて明るい光を投げかけてくれた。前半を２点リードの戦い、実は23年ぶりとか。今後の成長が楽しみになってきた。歴史が変わる日が着実に近づいているようだ。

歴史が変わると言えば、日本リーグ女子で３連覇のイズミが７月１日から、新しく生まれ変わった。イズミ本社のバックアップは続くが、さらに地元企業数社が資金援助してのクラブ化に踏み切った。名称は「広島女子ハンドボールクラブ」で、チーム名を広島県のシンボルであるモミジと闘争心を現す赤色を組み合わせて「広島メイプルレッズ」として、今シーズンの最初の大会、全国実業団選手権から参加している。

日本のスポーツ界、中でも企業スポーツは長引く経済不況もあって大きな転換期を迎えている。バレーボールの名門・日立なども休・廃部に追いこまれる状況だ。ハンドボール界も三陽商会が「ＨＣ東京」として活動を継続するなど、変革の波が押し寄せているのは確かだ。

そうした状況下でイズミでも、将来的に存続できる方法を２年前から模索してきた。広島県・市体協とも協議を重ねた結果、地域にも貢献できるクラブ化に踏み切った。

今はイズミの業績は増収を続けているが、切羽詰まってからでは、存続があやしくなるだけに、山西オーナーによれば「今が一番いいタイミング」でのクラブ化という。言い換えれば積極的な組織変更にとり、生き残りへ先手を打った決断だったし、これまでとは異なる新しい形のクラブ化と言えるだろう。

所属の選手たちは引き続きイズミ、または関連会社で社員として仕事を続けながら活動するが、これまで通りのハンドボール主体とはいかないだけに、どう戦力を維持するかもポイントのひとつだろう。

活動資金はイズミを主体に地元企業からの出資と一般から募る賛助会員の会費で賄うことになる。しかし、今後の展望がはっきりと描かれるまでに至っていないのも、また事実である。企業の協力が恒久的に得られるか、また、賛助会員がどれだけ集まるかなど課題もあり、まだまだ不透明でもある。

そうした状況のなかで頼みは、広島県体協が模索しているという地域に密着したヨーロッパ並みの総合スポーツクラブである。自治体主導のクラブとしての活動は、活路を見出すには最良の手段ではあろう。しかし、体協側は「まだ具体的に話は出ていない」と言うように、具体化はしていないのが現状のようだ。

今後は各大会に参加する傍ら、ハンドボール教室や講演会、あるいはジュニアの指導などに積極的に取り組む方針だ。広島国体開催をきっかけに誕生し、急速に戦力アップして日本のトップクラスに登り詰めたイズミ。企業を核として地域、行政、市民が三位一体となって本当の市民スポーツ文化創造へ走り続けるか。新しい試みは全国の注目を集めることは間違いない。

ANA

※貯めたマイルは、航空券に換えてからご利用ください。

ANA MILEAGE CLUB

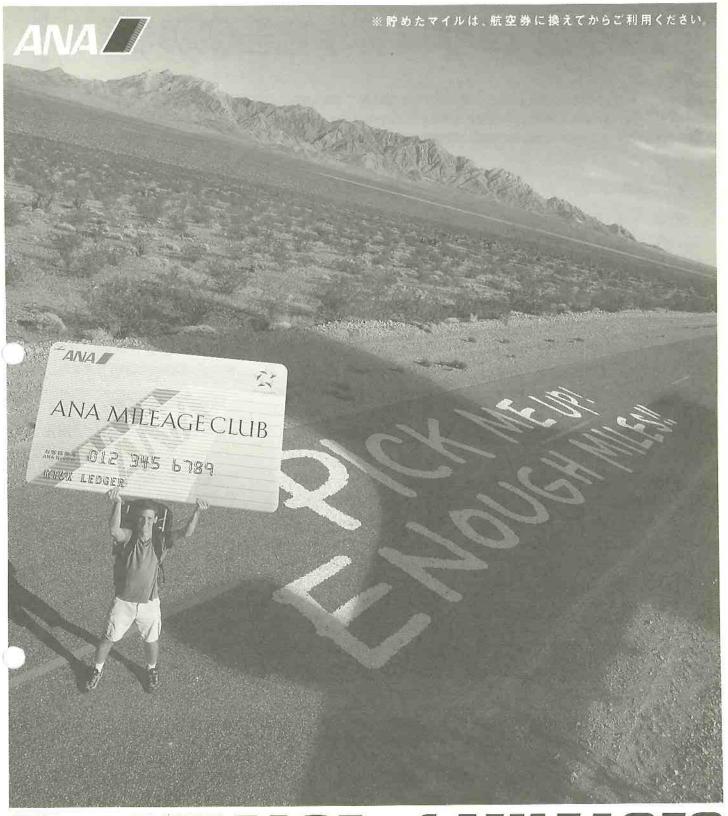
012 345 6789

RICK LEDGER

PICK ME UP!

ENOUGH MILES!!

The MILEAGE of MILEAGES

ネットワークがひろがって、マイルがさらに貯めやすく、使いやすくなりました。

今、全日空の空が大きく広がろうとしています。充実した国内線はもちろん、国際的な航空会社ネットワーク「スターアライアンス」への加盟により、国際線もさらに拡大。マイレージも、ぐっとワイドに貯まります。選ぶなら、やっぱり「ANAマイレージクラブ」。貯めやすさが断然ちがいます。

*スターアライアンス加盟の提携エアライン

全日空(ANA)　エアーニッポン(ANK)

エアカナダ　ニュージーランド航空

アンセット オーストラリア航空　ルフトハンザ ドイツ航空

スカンジナビア航空

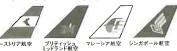
タイ国際航空

ユナイテッド航空　ヴァリグ ブラジル航空

*スターアライアンス以外の提携エアライン

オーストリア航空　ブリティッシュ ミッドランド航空　マレーシア航空　シンガポール航空　スイス航空

ANAマイレージクラブ

10月31日 全日空は、スターアライアンスに加盟。世界112ヶ国以上、760以上の都市をネットワークで結びます。

平成12年度日本協会表彰者

平成12年度日本協会表彰者が、第1回理事会の議を経て決定しましたのでお知らせ致します。
表彰されました方々の、今後益々ご健康で過ごされますことを祈念致しますとともに、ハンドボール界発展のため以前にも増しましてご指導、ご支援賜りますようお願い申し上げて、表彰者のご報告と致します。

奥山　重雄（59歳）

昭和34年より一貫して山形県協会運営に尽力。47年べにばな国体運営の全般に尽力さらに、指導・普及・強化・行政対策を行い総合優勝を得た。県協会事務局長として組織拡大、各市協会設立指導。ハンドボールを東根市普及競技として予算を獲得し、市技を目指す。日本リーグ開催、東日本小学生大会開催等予算化に尽力。山形県協会理事長。

北井　晴次（故人）

昭和41年から平成10年まで32年間、埼玉県協会の常任理事及び副理事長（昭和63年から平成10年まで）を務める。ナショナルプレーヤーとして活躍の後、審判活動に入り、国際審判員の資格を取得。上久保重次氏とのペアーで全日本総合決勝を数度担当した。

滝口　三郎（64歳）

長年にわたり、東京都協会、日本協会の役員を務め、ハンドボール競技の普及・発展に尽力をし、その貢献は大である。昭和58年から平成元年まで東京都協会理事長、この間日本協会役員も務める。平成元年より東京都協会副会長として在職中。東京都選出日本協会評議員を歴任中。

菊島　哲也（65歳）

昭和35年から、成年男子の選手、また、高校チームの指導者として活躍。協会運営にも係わり、昭和61年かいじ国体では運営等に多大な尽力をし、その後県協会副会長を歴任し現在も県協会運営に携わっている。日本協会評議員歴任中。

志々場　修二（52歳）

昭和46年より北陸高校男子ハンドボール部監督。インターハイ15年連続21回出場。平成9年京都インターハイにて優勝。県協会常務理事、審判長を歴任。平成11年度より県協会理事長。

河合　弘（77歳）

昭和41年から平成12年3月まで、愛知県豊橋市ハンドボール協会会長及び同期間愛知県協会副会長として、34年間ハンドボールの普及発展に貢献。

柴田　博隆（70歳）

多年にわたり、三重県ハンドボール協会常任理事、副会長として協会発展に力を尽くし、平成9年からは県協会会長として協会発展に寄与した。

上妻　忠夫（61歳）

昭和37年以来、岐阜県教育委員会で国民体育大会準備担当、国民体育大会選手強化担当として、ハンドボールの普及に尽力した。昭和40年からは県協会常任理事として17年間、ハンドボールの発展に寄与した。また、昭和56年から平成3年までは、理事長として県協会運営に尽力した。平成3年より副会長を務め、現在に至る。

清水　哲哉（55歳）

長年にわたり、理事長、副会長として滋賀県協会運営に従事、貢献した。また、監督としてインターハイ、国体等で活躍した。

藤本　昇（63歳）

指導者として、インターハイ出場、京都選抜の監督として、国体出場など実績を残した。また、この中で全日本選手を育てた。京都国体では総監督として総合優勝を飾った。現在理事長として全国小学生大会の連続開催に尽力。

望月　伸三郎（68歳）

大阪ハンドボール協会理事長を2期4年務め、協会発展に貢献した。また、指導者として数々の名選手を育てた。

岡田　茂夫（71歳）

昭和25年から36年まで、北海道ハンドボール協会理事長を務め、この間日本協会理事も務める。昭和36年兵庫県に移り、加古川市協会会長を経て、平成7年度から県協会会長となり、兵庫県ハンドボール界の普及・発展のために貢献された。また、平成13年度以降、第61回兵庫国体までの準備・運営においても、企業経営者の目からアドバイスをなされている。昭和26年第1回日本スポーツ大賞をハンドボール部門で受賞。

織田　武（60歳）

昭和44年頃から勤務校でハンドボールクラブを近畿大会に数度出場させる。この間県協会理事を務める。昭和52年から常任理事となり、奈良国体（わかくさ国体）開催が昭和59年に決まるや選手強化副部長に就任し、選手強化の指導者を養成され、総合優勝に導かれた。昭和63年から前理事長の不幸のため、任期途中を引き継がれて理事長に就任し、県協会発展のために寄与された。平成4年より参与として、協会運営、会議等に大所高所から助言をなされ、協会発展のため現在も寄与されて

いる。

槙岡　辰男（75歳）

永年にわたり、広島県ハンドボール協会副会長、呉ハンドボール協会会長としてハンドボール競技の普及、振興に多大な貢献をなされた。

有光　正憲（52歳）

選手及び理事として、高知県協会の発展に尽力し、現在は県協会副会長として2002年高知国体の成功に向けて活躍中である。昭和47年より高知県協会理事。平成11年より、副会長。

池田　寅勝（62歳）

公立学校事務職員として多忙な公務の傍ら、32年の長きに亘って長崎県協会の庶務・経理を的確に処理し、諸大会では会場の設営、昼食の世話、後片付けなど、裏方の仕事まで献身的に果たしていいる。従って、協会員や選手の人望も大変厚く本協会にはなくてはならない存在である。

井　薫（63歳）

熊本県において「大洋デパート」そして「立石電機」のちに「オムロン」に改称、の監督として、国体、全日本総合、全日本実業団、日本リーグの優勝39回を数え、熊本のハンドボール界をリードされた。監督引退後、理事、平成9年からは副会長として、'97男子世界選手権大会の成功、'99年国体、2000年アジア選手権の開催に尽力された。

都甲　英二（61歳）

大分県小学生ハンドボール連盟の会長として20年以上にわたり、その発展に寄与された。

鶴丸　勇美（63歳）

永年にわたり、鹿児島県ハンドボール協会の運営に当たり、ハンドボールの普及・振興に多大な貢献をした。特に、県協会理事として昭和47年の太陽国体においては役員として尽力し、昭和57年の鹿児島インターハイにおいては役員・監督として貢献した。その間も本県の競技力向上、普及・振興の中心人物として貢献した。鹿児島県ハンドボール協会において、普及・振興・競技力向上に最も尽力・貢献し、その功績は大である。

冨永　篤美（68歳）

宮崎県ハンドボール協会設立当時から、県協会の普及・強化に大きく貢献した。また、第3代の理事長に就任し、県協会の中心としても活躍した。現在は県協会副会長として尽力されている。

草井　由博（64歳）

全日本実業団ハンドボール連盟の会長を長年にわたり務め、実業団連盟の発展に寄与した。また、湧永製薬のオーナーとして、日本リーグの発展にも寄与し、多大な貢献をした。

小針　三夫（56歳）

全日本教職員連盟の理事として、運営、企画等に活躍した。また、指導者として常にインターハイ、選抜大会等、全国大会において活躍している。さらに、多くのナショナル選手を育成している。

北岡　大覚（61歳）

昭和53年から全国高等学校ハンドボール専門部の常任委員（強化委員）として活躍し、競技委員、審判長を経て、平成9年に全国高体連専門部の委員長として一期、2年間務められ、21年間の活動で大きな功績を残された。現在、大阪ハンドボール協会参与。

中澤　重夫（67歳）

日本協会理事、専務理事、副会長を歴任。ヨーロッパ以外で初めて開催された熊本での男子世界選手権大会の時の専務理事であり、その大会運営はIHFから絶賛されたことは氏の功績が大きい。芝浦工業大学で幾多の全日本タイトルを獲得し、幾多の日本を代表する名選手を輩出している。学生連盟では、現在も副会長を務められているが、ユニバシアード委員としても学生スポーツの発展に寄与された。現在日本協会参与。

大塚　文雄（62歳）

前日本協会審判委員長。日本協会審判部長として、数々の全日本大会審判を務め、審判員の育成に寄与した。また日本ハンドボール協会選出の日本体育協会評議員も務められ、日本ハンドボール協会のスポーツ界における地位向上にも尽力された。

野田　清（55歳）

前日本協会強化事業本部長。熊本世界選手権をはじめ、ナショナルチームの強化に尽力。日本の競技力向上に貢献した。ナショナル選手としては、その名を世界に轟かせた日本屈指の名プレーヤーだった。また、大同特殊鋼監督として、幾多の全日本タイトルを獲得している。ソウルオリンピックでは、日本ナショナルチームの監督を務めた。

柳井　文治（73歳）

永年日本協会理事・参事を歴任し、日本ハンドボールの普及・発展に尽力された。氏の長年にわたる経験と、その緻密なハンドボールの知識は、多くの大会を成功に導いてきた。

齋藤　博（65歳）

日本協会事務局員として、13年間を勤められた。前任の関口事務局長の後を受け、長年にわたり日本協会事務局長として、日本体育協会、日本オリンピック委員会、文部省、外務省などとの折衝にあたられた。この間、日本ハンドボール協会諸事業の展開に関与され、成功裡に終了していることは、氏の努力による所が大である。

・人・物・登・場・〜そのとき活躍した人々〜

人物登場。今回は初の女性にご登場いただきます。

柳沢(旧姓 石井)徳枝 さん

(昭和10年5月19日生)

お気付きの方もいらっしゃいますでしょうが、6月号にご登場いただいた長野県協会柳沢民弥会長の奥様。埼玉の熊谷女子高では、当初陸上・ソフトボールで活躍していたが、勧誘を受けハンドボール部へ。創部4か月にして東日本高校選手権で準優勝。その後の全国高校選手権でも4位に入賞。身長1m53cmながら、走り幅跳びの跳躍力をいかしたジャンピングシュートで「熊女に小さな大選手あり」を全国にとどろかせ、主将として大活躍をした。

ハンドボールとの出会いについて教えて下さい。

熊谷女子高等学校在学中に、体育科の親松治郎先生が、「本校でハンドボール部を作りたいのだが、中心になってやってくれないだろうか」という誘いを受けたのがきっかけでした。高校三年になる、春まだ浅い、春分の日にクラブが結成されたと記憶しております。4番でレフトのソフトボールに未練はありましたが、走・跳・投の三拍子そろったスポーツがハンドボールと実感、私に一番あっているのではという自惚れも手伝って入部しました。指導してくださいましたのは、日本体育大学の学生、西山逸成先生。先生はまず言いました。「僕の練習についてきなさい。必ず優勝できる」と。練習は男女の区別の無い程しぼられました。寒気がして、自然に涙が頬を伝わったこともありました。しかし、練習が終わると、爽やかで、充たされた気持ちになったのは何故だったのでしょうか。だからこそこの競技を好きになれたのかもしれません。

当時の新聞を拝見しますと、わずか4ヶ月で東日本で準優勝ですね。

クラブ結成から4ヶ月後の7月に、群馬県の桐生市で開催された東日本高校ハンドボール選手権で準優勝、8月に東京で開催された全国高校選手権では4位という成績も残すことができました。東日本大会の決勝の審判が、今は亡き荒川清美先生でした。翌日の新聞には「涌谷の笠松京子のボールのキープ力」や「熊谷の石井徳枝のロングシュートは実に見事」というような講評が載りうれしい思いもしました。

そして日本体育大学の女子短期大学へ。

はい、しかしいざ入部してみるとこれが拍子抜けするほど楽な練習で、わずかなハンドボール経験者にソフト・水泳・その他でやっと11名を集め編成された状態。しかし2年になると新入生に大阪の名門寝屋川高校から桑原芳子さん、函館中部高校から坂本良子さんら経験者が続々入部、徐々に成績も上向き第10回の神奈川国体で3位、そして東海林圭子先輩、同期で京都女子高校で監督として活躍された審愛玲さんと私と後輩達で全日体大を結成し、神奈川県平塚市で行われた第二回全国室内選手権で優勝することができました。

そして今度は教える立場へとなられました。

埼玉の熊谷商工高校で、監督としてのスタートを切りました。2年目から7人制となり、コートも縮小されて生徒も多少戸惑いを感じたようですが、全員2年生というチームで関東高校選手権大会、準々決勝で水海道二高と対戦、雨中の激戦の末勝つことができました。私の高校時代、毎日雨にたたられた合宿で、西山先生が「雨の日は必ずボールを持った人をフォローする」と教えていただいたことが役に立ち、おかげで3位に入賞することができました。また、徳永睦繁先生と松本重雄先生の肝入りで、決勝戦の笛を私が吹くことになり、とても緊張したことも覚えております。そして翌年、わが母校を破り初めてのインターハイの切符を手にすることができました。監督歴4年目の昭和34年には関東大会で念願の初優勝。また、その秋には高校の後輩・教え子とともに全埼玉で東京国体で3位になることもできました。

ハンドボール人生を振り返ってみていかがですか。

高校の1年間、短大の2年間のハンドボールが、現在の私の幸せな人生を形成する要因であったといっても過言ではございません。縁あって、現在は長野県に住み、主人と私・息子夫婦・2人の孫と6人家族で、孫の成長を楽しみに暮らしております。先日は、主人がスポーツの分野で長野県知事表彰の栄誉に浴し、身に余る光栄と存じております。これも支えてくださいました皆様のお陰と深く感謝しているところです。また、日体大の同期で雙珠会という会を作り、年1度2泊3日の旅行を続けております。仲間からのはがきに「練習はとてもつらかったけど、ハンドボールで卒業できて本当に良かった。こんな素晴らしい会ができて本当にうれしい」とあり、私も全く同感。同期4年生は素晴らしい方ばかりで、短大の私達にまで、(60歳)同士と声をかけて下さいました。毎年参加し、ハンドボール談義に花を咲かせております。

柳沢さんありがとうございました。次号もお楽しみに。

連載 15

NTS2001実施にあたって

(財)日本ハンドボール協会
NTS運営委員会　委員長　蒲生晴明

昨年度よりスタートいたしましたNTS(ナショナルトレーニングシステム)は、多くの関係者の皆様より絶大なるご支援を頂き、ほぼ計画どおり実施することができました。

このNTSは、21世紀に日本ハンドボール界が世界に飛躍していくために、是非とも成功させなければならない大事業であります。また、子供達の夢を育て、希望を与え、ハンドボール通じて豊な生活を送るための大切な資源となります。

この事業はまだ始まったばかりで、充分な理解が得られているとは申せませんが、将来のハンドボール発展のため、是非とも種々の垣根を取り払い多くの方々のご協力得ながら進めて行かなければなりません。

本年度のNTS2001を推進するにあたり、ブロックトレーニングのスケジュールと開催要項を掲載いたしますので、ハンドボール関係者の皆様の、益々のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

✲ ナショナルトレーニングシステム2001年 ブロック実施要項 ✲

1．目　　　的
若年層の運動能力の高い意欲のあるプレーヤーを早期に発掘し、将来、世界で活躍できる可能性を持ったクリエイティブな日本代表プレーヤーに育成する。統一された指導方法に基づいた一貫指導を実施し、指導者レベル向上をはかる。

2．主　　　催　(財)日本ハンドボール協会

3．主　　　管　開催ブロック協会　開催都道府県協会

4．開　催　日　毎年7月から9月末日

5．会　　　場
ハンドボールコート3面確保できるところが望ましい

6．参加対象者
各都道府県協会より推薦された選手、NTS委員より推薦された選手、推薦された選手の指導者

7．選手推薦
NTS推薦基準により各都道府県に一任

8．宿　　　泊
小中学生は1日参加（日帰り）とする
高校生男女と引率指導者は3,000円を日本協会負担

9．交　通　費
推薦された選手とその引率指導者には片道の交通費を日本協会より負担

10．傷害保険　傷害保険は日本協会にて一括加入

11．開催費用
体育館使用料・その他経費は開催地にて負担

12．公　文　書
選手・指導者には日本ハンドボール協会長名にて『参加依頼書』を作成開催地より発送
『開催お願い書』を日本協会より発送

13．承　諾　書
参加選手・指導者から参加承諾書をもらうこと

14．指導スタッフ
NTSコーチ　交通費・宿泊費は自己負担

15．昼　　　食　各自持参

16．備　　　品　開催地が用意する

17．指導内容
指導案とタイムスケジュールはNTS委員会が作成

18．参　加　料　開催都道府県に一任

19．そ　の　他
詳細についてはNTSコーチと開催都道府県の打ち合わせにより決定　　　　以　上

NTSブロック会議・トレーニング会の開催日予定

	北海道	東北	関東	東海	北信越	近畿	中国	四国	九州
開催日	9月8・9日	9月8・9日	9月8・9日	8月25・26日	9月22・23日	9月1・2日	8月8・23・29日	8月28・29日	8月27・28日
							小・中・高校		
開催場所	函館	岩手県	千葉県	静岡県	福井県	奈良県	広島県	高知県	熊本県
	函館大学体育館	花巻市総合体育館	千葉県総合体育館	清水第二中体育館	北陸電力体育館	奈良大付属高校	湧永製薬体育館	高知県民体育館	オムロン鹿陽センター
			スポーツ科学総合センター						山鹿市総合体育館
運営委員	蒲生晴明	東根明人	関　健三	杉森弘幸	荷川取義浩	佐々木英明	酒巻清治	佐藤壮一郎	田中　守
			藤本　元		大房重則	土井秀和			
ブロック技術委員長	高田智史	谷藤勝美	大村　久	山田正人	荷川取義浩	繁田順子	森安昭雄	武田末男	佐々木信男
コーディネーター	松喜美夫	志賀良弘	松井幸嗣	高村誠一	荷川取義浩	宍倉保雄	酒巻清治	奥田新治	西窪勝広
インストラクター	冨本栄次	首藤信一	藤本　元	橋本行弘	金　明恵	橋本行弘	林　五卿	佐藤壮一郎	小俣訓子
		田口侑義	首藤信一	田中俊行	角谷喜代重	長田健嗣	湊　勝利		元島邦彦
			志賀良弘	岡部哲也					佐々木信男
				三輪澄高					田中　守

小学生チーム活動特集

小学生クラブの活動報告をご紹介いたします。

■野辺地ハンドボールスポーツ少年団（青森県）

① 団体名・指導者名・所在地

野辺地ハンドボールスポーツ少年団

代表指導者：滝口　太

指導者：冨吉卓弥

青森県下北半島の付け根の人口17000人の野辺地町というところです。

② 団員数

小学生と中学生で一緒に活動しています。

34名（平成13年５月１日現在）

中学３年生：７名、中学２年生：12名、中学１年生：６名、小学６年生：２名、小学５年生：３名、小学４年生：２名、小学３年生：２名。

③ 団発足の経緯

昭和52年「あすなろ国体」ハンドボール競技が当町で開催されました。その時、私は野辺地高校３年生で運良く地元の国体に出場でき、高校卒業後「野辺地町ハンドボール協会」を設立しました。設立３年後あたりから協会主催の「ジュニア・ハンドボール教室」として活動してきましたが、平成10年５月に青森県で初めてのスポーツ少年団として誕生しました。

翌年、育成母集団（保護者会）が設立され、現在に至っています。

④ 指導にあたっての留意している事項

体育館の利用の関係で練習は水曜日・金曜日が18：00～19：00、土曜日が15：30～19：00しかできません。基本的には小学校３年生も中学校３年生も同じ練習をさせています。ボールを使う時間を多くとり、ルールを覚えさせるためにもゲーム中心の日もあります。

短い練習時間なので、練習が終わるまで集中して取り組むよう毎月の練習日程表にも書き加えています。

試合に勝つための厳しい練習ももちろん必要な時期はありますが、団員達に落ちこぼれがないよう、もっとハンドボールというマイナーなスポーツの魅力や楽しさを教えていきたいと思っています。

プレーを教える以上に気を配っているのは、先生でもない私が、中学生という一番大事な時期の子供達のその日の心身のコンディションを一瞬に見極め対応することです。

学校生活の大切さ、勉強の大切さがハンドボールを続けていく上で一番大事だとも毎日言っています。

⑤ 団員確保への具体的な取り組み

当町には、中学校1校、小学校５校ありますが、どの学校にもハンドボール部はありません。おとといしまで中学校は部活動への加入は強制のため、団員もバスケット、陸上に加入しながらハンドボール活動をしていましたが、昨年からは部活動が強制でなくなりましたので、団員が学校で勧誘したり、兄弟、姉妹の加入もあります。

入団募集のチラシを作り各施設に貼ったり、「スポーツ少年団だより」を発行したりしています。

青森県中学生大会アベック優勝・全員で

⑥ 地域社会、学校との連携のかかわり方

県内に常時練習しているチームが中学校では他に１チームしかなく、野辺地高校、社会人の野辺地クラブの協力を得ながら活動しています。

特に、保護者会の方々の協力には頭が下がります。

⑦ 本格的な練習のできる土曜日の午後のある日の練習

15：30　開始

ランニング→体操→基礎→パスキャッチ→シュート（ランニング・スタンディング・ジャンプ・サイド・ポスト）→フェイント→休憩→速攻（ワンマン・ツーマン・スリークロス）→ゲーム（小学生VS中学生女子：中学生女子VS野辺地高校女子：中学生男子VS社会人野辺地クラブ）→体操・連絡事項・片付け

19：30　終了

⑧ 他の団体指導者への助言等

助言だなんてめっそうもございません。

「ハンドボール」というスポーツをもっともっと盛り上げたいです。

がんばりましょう!!

⑨ その他、今後の目標

小学生女子は昨年青森県で初めて全国小学生大会に出場することができました。中学生男女も県大会を制し東北中学校大会、ＪＯＣ東北大会への出場も増え、だんだん試合らしい試合ができるようになってきたように思います。当面は、７月に青森県中学生兼東北中学校大会予選が開催されますので男子３連覇、女子５連覇を目指しチームを盛り上げていきたいと思います。また、小学生をもっと増やしたいです。

一応、青森県の普及部長、町協会の理事長もしていますので、中学生の彼ら、彼女らが高校、大学に進学してもハンドボールを続け、そして大きな舞台で活躍でき、指導者あるいは選手として野辺地町に帰ってくれる事を願っています。ハンドボール万歳!!

（滝口　太記）

日本ハンドボール協会強化委員会

—スポーツ医科学委員会だより—

順天堂大学浦安病院健康・スポーツ診療科
スポーツ医科学委員会委員長　坂本　静男

❶ はじめに

長期にわたり強化委員会医科学委員会委員長を努めていただいた西山逸成先生が、平成12年度(平成13年３月31日)をもって委員長任務を離れました。そして筆者：坂本静男が医科学委員長の後任として就きました。筆者はスポーツが大好きで、ハンドボール競技も大好きな医師ですが、正式にハンドボール競技を行ったことはありません。筆者のハンドボール歴は、中学時代に体育の授業で行った程度です。しかし競技をよく見ていました。それなりにハンドボール競技を理解している医師だと自分では思っています。筆者を始めとして他の医科学委員も、一所懸命にハンドボール界への協力をしたいと考えておりますので、よろしく御願い致します。

❷ 今年度の医科学委員会の構成メンバーについて

各部門の構成メンバーに関しては、図１に示してあります。医科学委員会は大きく分けて、アンチ・ドーピング(ドーピングコントロール）部門、スポーツ医科学研究部門、メディカルサポート部門の３部門があります。アンチ・ドーピング部門の担当者は筆者です。競技大会でのドーピング検査に関わるばかりではなく、日常的にアンチ・ドーピング運動に関わっていくことが、重要な仕事と考えられます。スポーツ医科学研究部門の担当責任者も筆者になっておりますが、いずれ適切な方に交代していただくつもりです。医科学研究に関しては、選手達にとって役立つと思われる研究テーマが以前より継続されて行われています。そのテーマに沿って、今年度も行っていくことになります。テーマとしては、①フィットネスに関する研究；②栄養と体脂肪に関する研究；③マウスガードに関する研究；④メンタルマネージメントに関する研究；⑤ゲーム分析に関する研究が挙げられて、九州地区は坂口ドクター、中四国地区は仲本ドクター、近畿東海地区は加藤ドクター、関東地区は河野ドクターになっております。さらにドクター調整者に河野ドクター、トレーナー調整者に加藤ドクターに就いていただいております。全日本やジュニアチームの監督、コーチが一番関係する部門がメディカルサポート部門と思われますが、協調してよろしく御願い致します。

❸ 今後の医科学委員会が目指すもの

アトランタ、シドニー両オリンピック大会に日本チームが参加できなかった点を考え、医科学委員会としてもアテネ大会に日本チームが参加できるように後押しをしていきたいと考えております。選手達のコンディショニングを良くする上で、医科学的な考えを取り入れてもらえることが重要かと思われます。栄養—休養—運動の健康の３本柱をバランス良く、高めていくことが、選手達のコンディショニング調整の上で最も重要なことと考えられます。運動量に見合っただけの栄養摂取を行い、必要なリラクゼーションをとり、適切なトレーニングを行うことが、必須でしょう。

❹ おわりに

医科学委員長の現実的な夢は、全日本チームがアテネ大会に参加し、その舞台裏でサポートをすることです。アテネ大会まで後３年、皆様の夢を現実化しましょう！

常務理事会

強化委員会

強化部長
全日本男子スタッフ
全日本女子スタッフ
スポーツ医科学委員会

スポーツ医科学委員会委員長
（ＡＨＦ　Ｍ／Ｃ）
坂本　静男（順天堂浦安病院）

事務局
（財務）　斉藤慎太郎
（庶務）　河野　卓也

アンチ・ドーピング部門
担当責任者：坂本　静男

加藤　　公（三重大学医学部）
佐久間克彦（熊本赤十字病院）
青木　義広（防衛医科大学校医学部）
千葉　裕典（順天堂大学医学部）
西山　逸成（順天堂大学医学部）

スポーツ医科学研究部門
担当責任者：坂本　静男

体力測定	森田　俊介（山口大学）
	竹内　正雄（星薬科大学）
	竹ノ谷文子（星薬科大学）
	田村耕一朗（筑波大学）
	佐藤荘一郎（大同工業大学）
ＮＴＳ	蒲生　晴明（中部大学）
	田中　　守（福岡大学）
形態脂質	高橋　勝美（神奈川工科大学）
メンタル	樫塚　正一（武庫川女子大学）
	田島　靖江（武庫川女子大学）
ゲーム分析	斉藤慎太郎（日本体育大学）
	市村　志郎（日本体育大学）
栄　養	鈴木　久乃（女子栄養大学）
	石井　恵子（ドゥ・スポーツプラザ）
ＪＯＣ	
プロジェクト	
ゲーム分析	斉藤慎太郎（日本体育大学）
フィットネス	西山　逸成（順天堂大学医学部）

メディカルサポート部門担当責任者
ドクター部会長 1 ：九州地区 2 ：中四国地区 3 ：近畿東海地区 4 ：関東地区

ドクター調整者:河野　卓也　4
（横須賀共済病院）

加藤　　公（三重大学医学部）　3
佐久間克彦（熊本赤十字病院）
天門　永春（横浜市立大学医学部）
山崎　哲也（横浜南共済病院）
千葉　裕典（順天堂大学医学部）
有田　　忍（産業医科大学医学部）
岡本　　健（岡本クリニック）
山本　健一（横須賀共済病院）
坂口　　満（熊本整形外科病院）　1
生田　哲也（熊本整形外科病院）
島田　信弘（相模原共済病院）
大庭　英雄（相模原共済病院）
青木　義広（防衛医科大学校）
高橋　良正（産業医科大学医学部）
福田　亜紀（鈴鹿回生病院）
宮本　和彦（熊本赤十字病院）
沖本　信和（産業医科大学医学部）　2

マウスガード
杉山　祥（杉山歯科病院）
木本　一成（神奈川歯科大学）
千葉　栄一（八千代歯科クリニック）

咬合力
松本　　勝（明海大学病院）

トレーナー調整者：加藤　　公
（三重大学医学部）

赤尾和彦
中田俊博
成瀬美紀
田辺利香
川波賢一
藤本広樹
障上修一
石橋輝彦
立野伸一
西山圭介
西村英治
小松雅樹
井手善広
倉地洋輔
酒井　薫
本宮幸次
桝本　愛
皆川直哉
井益聖滋
河野公昭
峠　真由美
今井秀登
田村耕一郎

2001年男子ジュニア世界選手権ドロー

2001年男子ジュニア世界選手権(スイス)ドローがチューリッヒで行われ、以下の予選ラウンドグループ分けが決まった。この大会は、8月19日から9月2日に亘り、24都市で開催される。

グループA	グループB	グループC	グループD
スペイン	エジプト	ベラルーシ	ユーゴスラビア
スロベニア	デンマーク	ハンガリー	ポーランド
クロアチア	スイス	スウェーデン	チュニジア
ノルウェー	アルジェリア	クウェート	ブラジル
南アフリカ	アルゼンチン	ドイツ	カタール

ハンガリーの女子ジュニア世界選手権では、会場を少なく絞るが、スイスは正反対のやり方をする。すなわち、試合の割り振りに関して、24以上の都市や町が考慮に入れられ、「明日のハンドボールに会いましょう」をモットーに選び、チームスポーツとしてのハンドボールをできるだけ多くの人に知ってほしいと願っている。

また、レフェリーも指名された。以下の通り。

Kaschutz・Reisinger	オーストリア
Righeto・Silvia	ブラジル
Doumbia・Gbela	コートジボアール
Breto・Huelin	スペイン
Choi・Lim	韓国
Al-Shawairbat・Rethaie	クウェート
Liachovicius・Paskevicius	リトアニア
Kozlovskij・Zhuravlev	ロシア
Falcone・Ratz	スイス
Vitzthum・Choquard	スイス
Hakanson・Nilsson	スウェーデン
Al-Amery・Mukhayer	UAE
Konplyastij・Shal	ウクライナ
Ferres・Rodriguez	ウルグアイ

補欠 Poumier Maceo・Valdes Borreto キューバ

2001年女子ジュニア世界選手権ドロー

2001年女子ジュニア世界選手権(ハンガリー)ドローが、ギョールで行われ、以下の予選ラウンドグループ分けが決まった。この大会は、7月29日から8月12日まで、Gyor, Papa,Gyorujbaratでおこなわれる。

グループA	グループB	グループC	グループD
ロシア	ルーマニア	スウェーデン	クロアチア
スペイン	ユーゴスラビア	ドイツ	ノルウェー
韓　国	デンマーク	チャイニーズタイペイ	ハンガリー
オランダ	ブラジル	日　本	アンゴラ
中　国	チュニジア	トルコ	アルゼンチン

また、レフェリーも4大陸から14ペアーが指名された。以下の通り。

Adjemian・Gotz	アルゼンチン
DossoYovo・Wadochedo Houn	ベニン
Jawad・Al-Madani	バーレーン
Ren・Wang	中　国
Hassan Aly・Salim Aly	エジプト
Borotti・Marcet	フランス
Kekes・Kekes	ハンガリー
Cohen・Peretz	イスラエル
Abrahamsen・Kristensen	ノルウェー
Solodko・Solodko	ポーランド
Pozeznik・Repensek	スロベニア
Hagen・Nilsson	スウェーデン
BenFredj・Jamhouri	チュニジア
Kekes Szabo・Mosberg	アメリカ

女子世界選手権レフェリーを指名

2001年女子世界選手権のためのレフェリーが、IHFより指名された。18ペアーが指名されたが、全参加者が決定した時点でヨーロッパの2ペアーが削られる予定。この大会にはドイツ、ユーゴスラビアは女性ペアーを出すが、アルゼンチン、スペインは混合ペアーを出す予定。以下のレフェリーが指名されている。

Besses・Benmila	アルジェリア
Alonso・Malik de Tchara	アルゼンチン
Dittich・Scharf	ブラジル
Krajic・Zivolic	クロアチア
Dolejis・Kohout	チェコ
Brunn・Nielsen	デンマーク
Permuy・Fermandez	スペイン
Bord・Buy	フランス
Ehrmann・Kunzig	ドイツ
Arnaldsson・Vidarsson	アイスランド
Bardella・Rubinetti	イタリア
Kang・Lim	韓　国
Liachovicius・Paskevicius	リトアニア
Forbord・Jorstad	ノルウェー
Baum・Goralczyk	ポーランド
Plesa・Pripas	ルーマニア
Khudoerko・Litvinov	ロシア
Gardinovacki・Maric	ユーゴスラビア

予備レフェリーに以下の4ペアーが指名されている。

Hassan Aly・Salim Aly	エジプト
Borrotti・Marcet	フランス
浜田・小笠原	日　本
Anusic・Bojsen	アメリカ

参加24チームのうち、13チームがすでに決定している。残り11チームは、ヨーロッパとパンアメリカ予選で決定される。現状のシード順は以下の通り。

1	ノルウェー	ハンガリー	ウクライナ	ロシア
2	ルーマニア	フランス	ヨーロッパ6	ヨーロッパ7
3	韓　国	ヨーロッパ8	ヨーロッパ9	イタリア
4	ヨーロッパ10	アンゴラ	パンアメリカ1	日　本
5	ヨーロッパ11	中　国	コンゴ	パンアメリカ2
6	ヨーロッパ12	チュニジア	パンアメリカ3	ヨーロッパ13

ワールドゲームズ2001秋田

ワールドゲームズのビーチハンドボールは、4大陸からナショナルチームが男女とも6チーム参加して、8月23日から25日まで秋田の本庄ビーチで行われる。オセアニア大陸のみ参加しない。これはヨーロッパチームが埋める。

ワールドゲームズは、30種類のスポーツを網羅しており、ビーチハンドボールは初めてデモンストレーションスポーツとして実施される。

大　陸	男　子	女　子
アジア	イラン	中　国
アフリカ	トーゴ	トーゴ
ヨーロッパ	ベラルーシ	ウクライナ
ヨーロッパ	スペイン	ドイツ
ホスト国	日　本	日　本
補　欠	ロシア	ロシア

レフェリーも下記ペアーが指名された。

Silva・Carios	ポルトガル
浜田・小笠原	日　本
Masi・Di Piero	イタリア
Kucukyilmaz・Hakan	トルコ
仲田・植村	日　本

新PRCインストラクターメンバーを任命

IHF PRCはインストラクターの新メンバーを任命した。全大陸のレフェリーに対するトレーニングと高度なトレーニングは、ＩＨＦを代表するこれらのインストラクターとレクチャラーによってなされる。新ＰＲＣインストラクターは次の通り。

Terje Anthonsen	ノルウェー
Ole Chrisensen	デンマーク
Ramon Gallego Santos	スペイン
後藤　登	日　本
Willi Hackl	ドイツ
Stefan Jug	スロベニア
Teddy Juliussen	カナダ
Roger Schill	スイス
Carlos Sousa	ポルトガル
Meziane Tacine	アルジェリア
Miguel Angel　Zaworotny	アルゼンチン
C. Yakubu	ナイジェリア

ビーチハンドボールの講師は、Piero di Piero(イタリア)、Gianpiero Masi(イタリア)が任命されている。

※日本からは過去に光島磯雄氏、斎藤実現日本協会審判長が任命されている。

新CCMレクチャラーメンバーを任命

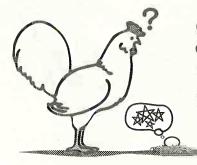
ＩＨＦ・ＣＣＭは、新しいレクチャラーを次のように任命した。これらのエキスパートの主な仕事は、ハンドボール発展途上国で選手・コーチをトレーニングすることである。

Michal Barda	チェコ
Daniel Constantini	フランス
Klaus Feldmann	ドイツ
Juan Antonio Garcia	スペイン
Jean-Michel Germain	フランス
Pablo Juan Greco	ブラジル
Mohamed Hammouda	エジプト
Ekke Hoffmann	ドイツ
Anna-Maria Jakab	スイス
Bengt Johansson	スウェーデン
Laszlo Kovacs	ハンガリー
Wolfgang Lowak	ドイツ
JuanDeDiosRomanSeco	スペイン
ElsayedM.AhmedSolyman	ＵＡＥ
Nabeel Taha Al-Shehab	バーレーン
Ton Van Linder	オランダ

※日本からは過去に、水上一氏(筑波大学)が任命されている。

がんばれハンドボール10万人会情報

新会員の紹介（2001年6月に入会・更新された方々）

【北海道】
小笠原久郎
小笠原一郎
【青森】
小野博正
工藤桂子
西村淳子
【岩手】
菅原政利
中島昭博
中島　航
中島莉帆
中島由茉莉
【福島】
高橋光洋
菅野修子
佐藤夏美
玉川卓生
佐山　諒
青山好宏
佐藤こずえ
丹野富美子
国井宏介
菅波祐樹
根本政剛
八巻圭子
菅野勝也
星　正典
安斉恵美子
菅野矩子
大谷　博
齋藤秀一
高尾十史郎
半田寛子
佐々木美久
吉井ゆうき
中村　彩
杉本さやか
鎌田紀子
伊東佳美
星　てるみ
陰山達也
渡辺　剛
田中俊也
菅野幸広
早川光也
相楽浩二
鈴木　毅
塩澤あずさ
北村瑶子
西坂　純
佐藤智美
菅野純也
渡辺峰夫
宍戸めぐみ
酒井理江
遠藤暢章
梅津智寛
磯野　望
小川遥一
三瓶正義
渡辺哲也
石井裕之
有馬健二
内藤千晶
国分一樹
渡辺　満
金沢　徹
吾妻幸嗣
鈴木一也
中村勇太
梅津圭佑
竹村　健
添田正人
小沼秀幸
安藤宏和
大原啓太郎
【茨城】
出頭秀彦
鈴木　均
武藤康夫
中山　悟
山崎隆裕
染谷　充
戸崎圭一
【栃木】
藤本　勉
野中延雄
高岡綾子
小山南高校
保護者会
小泉和明
高岡吉治
【群馬】
酒井　宏
【千葉】
福井恵二
【東京】
増渕潤一
【神奈川】
森川利昭
【山梨】
堀内めぐみ
【新潟】
小池規子
【福井】
大嶋　勉
谷口信二
半田有完
大嶋一恵
半田香苗
【愛知】
水谷美智子
【三重】
奥田亜紀子
橋本行弘
橋本菜月
橋本涼加
橋本由紀子
橋本　快
【岐阜】
福田直行
加藤辰彦
滝村紀貴
村田由巳子
山下光二
都竹伸輔
美素富美子
橋本　勝
岩田直喜
太江　諭
中島八郎
足立直樹
佐美健士
荒町則子
畑中寛之
杉本　要
荒町浩史
井上公男
西尾登尚
松山絵里
松山絵美
後藤雅智
中島　康
杉下由紀子
原　克行
杉山健司
上畑知子
名倉昭弘
保木雅好
岩田健二
小瀬　隆
吉安秀光
【京都】
審　愛玲
【大阪】
里村静俊
近藤善重
川中府美恵
伊藤慎吾
渡辺利文
和田恵美世
下佐古明彦
湯川卓哉
藤井千賀
山本正明
河崎由香利
【兵庫】
長　靖麿
小西博喜
後藤直樹
【和歌山】
木戸地浩三
【鳥取】
松原春子
吉田達明
【岡山】
村木理英
藤井俊朗
【広島】
山本伸二
玉村敦子
市河　誠
【愛媛】
越智　武
田中達男
田中八代子
田中　愛
田中　慧
村上純也
村上幸子
村上和生
村上侑司
佐伯　敦
【高知】
葛目憲昭
岡本憲和
【福岡】
岡本　豊
野中弘幸
日野祐一郎
【佐賀】
柳本英雄
【長崎】
井上卓士
和崎正衛
得丸　光
吉岡博信
出端征一
藤井　寛
【熊本】
高木徹郎
【沖縄】
新垣安伴
新垣さやか
新垣耕平
新垣ひかる

平成11年度から
新会員登録制度
スタート!

がんばれ ハンドボール 10万人会

● HANDBALL　FAMILY

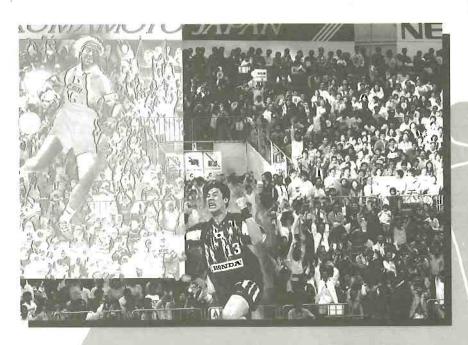
	年会費	主な特典
グランド会員	10.000円	日本協会機関誌（年11回） 日本協会主催大会無料パス 会員バッジ 日本協会認定グッズの割引
ファミリー会員	3.000円	日本協会主催大会無料 ペア券1枚 会員バッジ 日本協会認定グッズの割引

■登録増によるメリット

● メジャースポーツとして認知
● 登録金の増収

● スポンサーがつく
● 全員参加意識の高揚

財源確保

各種事業への活用と充実
○ 小・中学校の普及
○ ビーチ・マスターズ・車いすハンドの支援
○ ミニハンドボール競技の導入
○ ジュニア層の重点強化
○ 各大会の補助金アップ
○ 国際大会の招致
○ 一貫指導体制の確立

団結しよう!

ハンドボール・ファミリー

少子化の影響などにより登録人口の減少傾向が各スポーツ界の大きな悩みになっています。昨今の経済不況も深刻さを増すばかりです。

今こそハンドボール・ファミリーが団結する時です。皆さんが自分のチームを愛するように、日本ハンドボールを愛して下さい。登録人口が増え、財源が大きくなれば、小・中学校の普及はもとより、ビーチ・マスターズ・車椅子ハンドボールの支援、ミニハンドボールの普及、また強化の根幹となるジュニア層の重点強化、そして各大会の補助金アップや国際大会の招致などにつながります。

皆さん1人ひとりが主役です。選手、審判、役員、OB、OGなどに限らず新たなサポーターも募り、全員参加のもとでメジャー化を図り、ハンドボール文化を構築しましょう。

グランド会員、ファミリー会員への入会方法

所定の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、お申し込み下さい（郵送の場合は切手は必要ありません）。後日、日本ハンドボール協会から会員バッジなどをお送りします。年会費はご指定を受けた金融機関の口座から引き落としさせていただきます（ほとんどすべての金融機関でご利用できます）。

なお、申し込み用紙は、日本協会、各都道府県協会、または各全国連盟事務局にご請求下さい。

財団法人　日本ハンドボール協会

〒150-8050　東京都渋谷区神南1-1-1　岸記念体育館内
TEL.03-3481-2361　FAX.03-3481-2367
http://www.handball.or.jp/

協会だより

平成13年度 5月常務理事会

［日　時］平成13年5月12日（土）
9：00～11：00
［場　所］神戸市立中央体育館　会議室
［出席者］山下副会長、岩井特任副会長、大西専務理事、常務理事8名、監事2名、参事2名、事務局3名

議題

1、平成12年度決算（案）及び平成13年度第一次補正予算（案）について

平成12年度決算（案）について、説明があった。

続いて、平成13年度第一次補正予算（案）について説明があり、アテネ特別強化委員会予算が確定後に再編成することとなった。

アテネ特別強化委員会予算表等について説明があった。平成13年度予算で、アテネ関連は、事業予算、事業計画、事業活動について、上期までは承認。

今後の大会予定について

ジャパンカップの取り組みについて

全日本実業団選手権について、会場が大阪市から熊本に変更、大会をトーナメントからリーグ戦方式に

第5回日韓スポーツ交流について、強化本部長に調整が依頼された。

その他

秋田ワールドゲームズ、ビーチハンドボールの審判派遣ペアーを報告

平成13年度 第1回全国理事会

［日　時］平成13年6月9日（土）
［場　所］（株）三陽商会
第6別館（サウスアトリエ）
［出席者］山下副会長、大西専務理事、常務理事9名、理事6名、監事2名、参事15名、参事代理1名、事務局4名

自己紹介の後、大西専務理事から「日本協会のハンドボールの理念」の説明がなされた。

・ハンドボール協会の理念を資料により説明。
・昨今の社会情勢の中でハンドボールの果たす役割。
・日本協会に活力があるということは、都道府県協会が元気であるということである。
・登録人口を10万人にしよう。
・スポーツ振興法の中における日本協会の役割。

議題

1、平成12年度決算（案）について

平成12年度の決算報告（案）について以下の説明がなされた。 収入の部では、アテネ特別強化委員会関連事業による変動が大きく影響し、決算増となった。支出の部では、アテネ特別強化委員会への特別会計繰り入れが大きな変動要因となり、当期支出合計が予算額に対して増となった。

監事から、適正妥当であるとの監査報告がなされた。

以上、承認。

2、平成12年度事業報告（案）について

普及・指導に関しての報告がなされた。競技運営に関しての報告がなされた。国際関係の報告がなされた。競技規則に関しての報告がなされた。強化に関しての報告がなされた。機関誌に関しての報告がなされた。企画広報に関しての報告がなされた。財務・会計に関しての報告がなされた。日本リーグに関しての報告がなされた。日本リーグ会長からリーグへの理解と協力が要請された。「がんばれ10万人会」に関しての報告がなされた。平成13年3月31日現在の会員数は1054名であることが伝えられた。

平成12年度事業報告は、以上承認。

3、平成13年度第一次補正予算（案）について

平成13年度第一次補正予算（案）について、アテネ特別強化委員会の予算が固まったことで、アテネ特別強化委員会とビーチハンドボール分の積立預金取り崩しで、当期収入合計を補正し、支出の部では、一貫指導体制、スポーツ医科学研究、アテネ特別強化委員会への特別会計へ繰り入れを補正したことの説明がなされた。

加盟団体登録金は都道府県協会から15％が還付金として差し引いた額として日本協会に納入されているが、これは日本協会の補助金の支出として計上してほしい旨意見があった。

以上、平成13年度第一次補正予算（案）を承認。

4、平成13・14年度評議員承認について

平成13・14年度評議員候補の名簿が提示され、承認された。

5、強化・アテネ関連（東アジア競技大会、アジアサーキット）について

アテネ特別強化委員会岩井会長より強化・アテネ関連についての事業計画（案）の説明がなされた。この案件については、常務理事会の承認を得ていないため、案の報告のみに留めることが述べられた。

各ナショナルメンバーの候補名簿、ビーチハンドボールメンバーの公表、東アジア大会の総評がなされた。

強化・アテネ関連（東アジア競技大会、アジアサーキット）については了承された。

6、「がんばれハンドボール10万人会」について

「がんばれハンドボール10万人会」について報告がなされた。都道府県協会への還元金は累進制とし、その割合は以下の通りとする。

50人以下→12％

50人以上

又は会費総額20万円以上→20％

100人以上

又は会費総額40万円以上→25％

300人以上

又は会費総額130万円以上→30％

5月末までに平成12年度の会員名簿が確定した。

平成12年度　1054名

今後益々各都道府県において会員拡充に取り組んでいただきたい。なお、今年度の還元金の支払いは平成13年度の数値が確定した時点でおこなう。

「がんばれハンドボール10万人会」については了承された。

7、平成14年度以降登録金改訂について

登録金の平成14年度からの改訂について説明がなされた。大西専務より、登録金は改訂しないに越したことはないのだが、協会運営のため今回議決してほしい旨発言がなされた。

この際、改訂に伴って事務局員を増やすなりして、事務効率化の改革をおこなうべきではないかとの意見があった。

日本協会は4億円の予算で1年間運営している。大きな大会を開くと2～3千万必要なので繰越金が必要である。前回平成7年の登録金改訂に際しては地方の段階的引き上げ論があり、今回の改訂案が提出されている。

登録金の平成14年度以降改訂について承認された。

報告事項

1、日本協会各本部より業務報告

【競技本部関連】

・指導・普及部

普及特別委員会のメンバーが発表された。学校体育関係で小学生のハンドボールとそれに伴う指導者の育成、今年度の「学校体育ハンドボール研究会」（8月4日、5日開催・神奈川県）について説明がなされた。

・競技運営部

ワールドゲームズ・ビーチハンドボール選手権大会（秋田）について説明がなされた。

第3回全日本ビーチハンドボール大会（兵庫県舞子海岸）について説明がなされた。

・審判部

実業団選手権の副審判長が変更されたことが報告された。

【強化事業本部関連】

ヒロシマ国際について説明がなされた。

2、各連盟・ブロックより報告

・全日本実業団連盟

実業団選手権の大阪府から熊本県に会場が変更されたこと、競技は上位4チームにより　決勝リーグをおこない順位を決定すること、TV放送について、関西ペイントの協賛でおこなうこと、最終日はタレントを呼び観客動員につとめることが説明された。

・全日本学生連盟

全日本学生連盟から、連盟役員名簿が提示された。東西、全日本インカレ日程を記入したので観戦をお願いしたい。

・全国高体連ハンドボール部

高体連から、日中韓ジュニア交流大会が、国体ブロック予選の日程と重なり、チームに影響が出ているので日程変更要請がされた。

・教職員連盟

教職員大会への参加要請がなされた。

・宮城国体について

宮城国体に当たって、成年女子以外は民泊となることが伝えられた。それに伴い、10月11日午後から宿舎に入ってほしい、1チームあたり16名としてほしい、試合を行った当日は試合が、午前午後に関わらず宿泊してほしい旨連絡された。

・関東ブロック

関東ブロックから高校選抜の開催県が示された。

平成15年神奈川県、

平成16年茨城県、

平成17年は予選が千葉県、埼玉県、

決勝ブロックが東京都

全日本総合は千葉と神奈川で実行委員会を設置して行うことを報告

・北信越ブロック

北信越ブロックから富山の高校選抜大会を市制50年、大会25回の記念大会として全県1チーム参加の方向で検討してほしい旨要望が出された。

大会規模については高体連に任されている。高体連では5年ごとの記念大会制度を廃止しており、富山大会決定時でも確認していたはずであるとの回答がなされた。

【8月の行事予定】

■7月29日（日）～8月12日（日）
第13回女子ジュニア世界選手権（ハンガリー）
■8月1日（水）～5日（日）
第52回全国高校選手権大会(熊本県山鹿市総合体育館ほか)
■8月4日（土）～5日（日）
第2回ビーチハンドボール選手権大会（兵庫県）
■8月4日（土）～5日（日）
第28回全国高等専門学校選手権大会
（山口県徳山総合スポーツセンター）
■8月4日（土）～5日（日）
第14回全国小学生大会（京都府京田辺市中央体育館）
■8月8日（水）～12日（日）
西日本学生選手権大会（福岡県アクシオン福岡ほか）
■8月13日（月）～16日（水）
第6回ジャパンオープントーナメント
（高知県高知県民体育館ほか）
■8月17日（金）～21日（火）
東日本学生選手権大会
（山梨県小瀬スポーツ公園体育館ほか）
■8月18日（土）～21日（火）
第30回全国中学校大会(山口県徳山総合スポーツセンター)
■8月23日（木）～29日（水）
第9回日・韓・中ジュニア交流競技会（中国遼寧省）
■8月23日（木）～25日（土）
秋田ワールドゲームズ（秋田県本庄マリーナ海水浴場）
■8月26日（日）～30日（木）
ジャパンナショナルクラブカップ2001
8月26日（愛知県名古屋市中村スポーツセンター）
日本代表α対エストニア/日本代表β対スウェーデン/
スペイン対ロシア
8月27日（三重県鈴鹿市体育館）
日本代表β対スペイン/エストニア対ロシア/
日本代表α対スウェーデン
8月28日（愛知県岡崎市総合体育館）
スペイン対エストニア/スウェーデン対ロシア/
日本代表α対日本代表β
8月29日（神奈川県横浜文化体育館）
エストニア対スウェーデン/日本代表β対ロシア/
日本代表α対スペイン
8月30日(神奈川県横浜文化体育館)
日本代表β対エストニア/スペイン対スウェーデン/
日本代表α対ロシア
※30日は16：20～16：50までたけし軍団によるアトラクションを予定。
※30日の2試合をTVKテレビでON-AIR。
■ 8月下旬
NTS（各ブロック）

HAND BALL CONTENTS AUG

柔らかな感触で、最適なバウンド！

新発売

PKCH3-AD DX
5,500円

new

PKCH1-ADJ
3,600円

new

PKCH2-AD DX
5,400円

手縫い・国際公認球

PKCH3-AD
4,600円

PKCH2-AD
4,500円

PKCH3-ADR
2,800円

PKCH2-ADR
2,700円

MIKASA®
明星ゴム工業株式会社

(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』 第四二二号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可

平成十三年七月二十六日印刷 平成十三年八月一日発行

東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表 三四八一－二三六一
〇〇一二〇－七－一〇二九三

編集兼発行人 大西武三

定価 年間三三〇〇円（一冊三〇〇円）